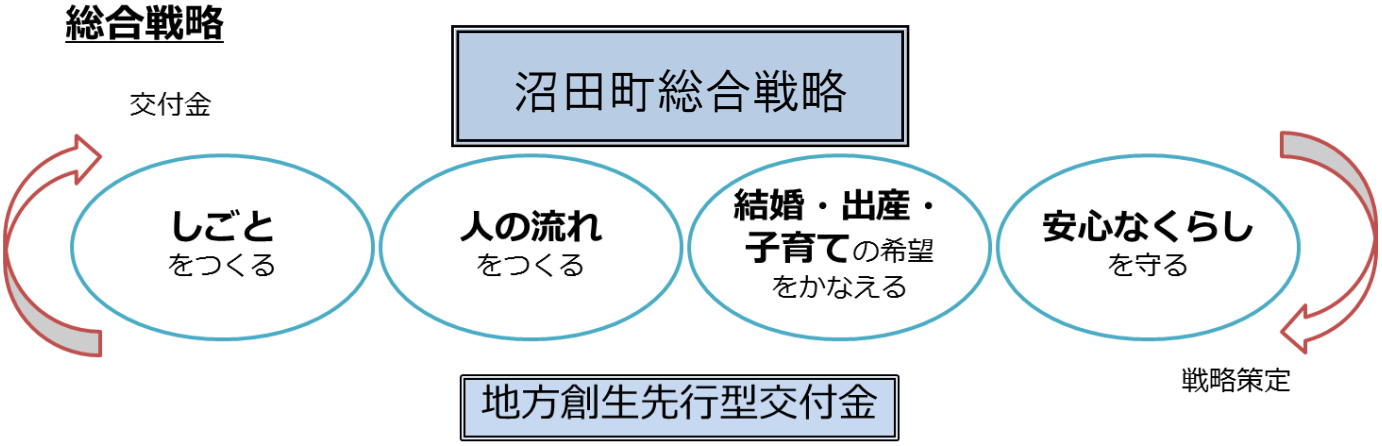
沼田町総合戦略

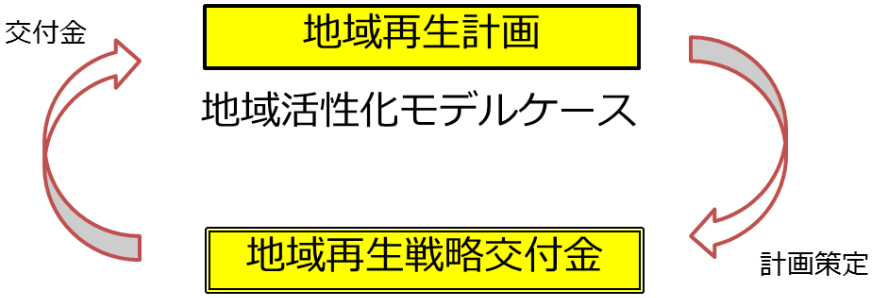
北海道　沼田町

地域再生計画と沼田町総合戦略との関係

総合戦略



事業計画



H26

- **地域活性化モデルケース**

『沼田町農村型コンパクトエコタウン構想』がH26.5.29認定

H27

- **地域再生計画**（地方版総合戦略の核となるプロジェクト）

『沼田町農村型コンパクトエコタウン構想』がH27.6.30認定

H27

- **地域再生戦略交付金**

地域再生計画に基づく交付金としてH27.9.8交付決定

H27～

- **沼田町総合戦略**

（地方創生に関する目標や施策に関する基本的方向）

目　次

第１章　総合戦略の策定にあたって

1-1　戦略策定の意義　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
1-2　総合戦略の構成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
1-3　策定方法について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
1-4　まちづくりの課題(施策策定の背景)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
1-5　総合戦略の推進方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

第２章　総合戦略のビジョン

2-1　総合戦略の考え方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
2-2　総合戦略の４つのプラン　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

第３章　総合戦略の具体的な施策

3-1　コンパクトなまちを目指す（Plan1）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
3-2　最期まで健康で安心して暮らせるまちを目指す　（Plan2）　・・・・・・・・25
3-3　農業を柱とした若者中心の小さな経済づくりを目指す（Plan3）　・・・・・・31
3-4　子どもが戻ってくるふるさとづくりを目指す（Plan4）　・・・・・・・・・・39
3-5　施策の一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46

参考資料

1-1　将来展望のための住民の意見　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
1-2　結婚、出産・子育てに関するアンケート集計結果　・・・・・・・・・・・・・58

１．戦略の策定にあたって

1-1 戦略策定の意義

地方創生のモデル自治体となることを目指します

急速な少子高齢化の進展に伴う人口減少の時代には、地方が自ら考え、自分たちの手で持続可能な成長戦略を推進することが求められています。特に沼田町のような地方の小規模自治体は、地域の特性を最大限に生かした戦略を自分たちの手で進めることで、島根県海士町や徳島県神山町のような地方創生のモデルとなることが期待されています。

「参加なくして、未来なし」、住民とともに事業を推進します

人口減少の時代に地方が真に成長し続けるためには、行政だけでなく地域の住民が様々なかたちで地域づくりに参加することが必要です。沼田町では、「参加なくして、未来なし」という理念に基づき、コミュニティデザインの手法を活用しながら住民と行政が協働したまちづくりを進めています。

住民とともに沼田町農村型コンパクトエコタウン構想を推進しています

先行的な取り組みとして、平成 25 年度より住民とともに「沼田町農村型コンパクトエコタウン構想(※以下コンパクトタウン構想)」を推進しており、内閣府の地域活性化モデルケースにも認定されました。

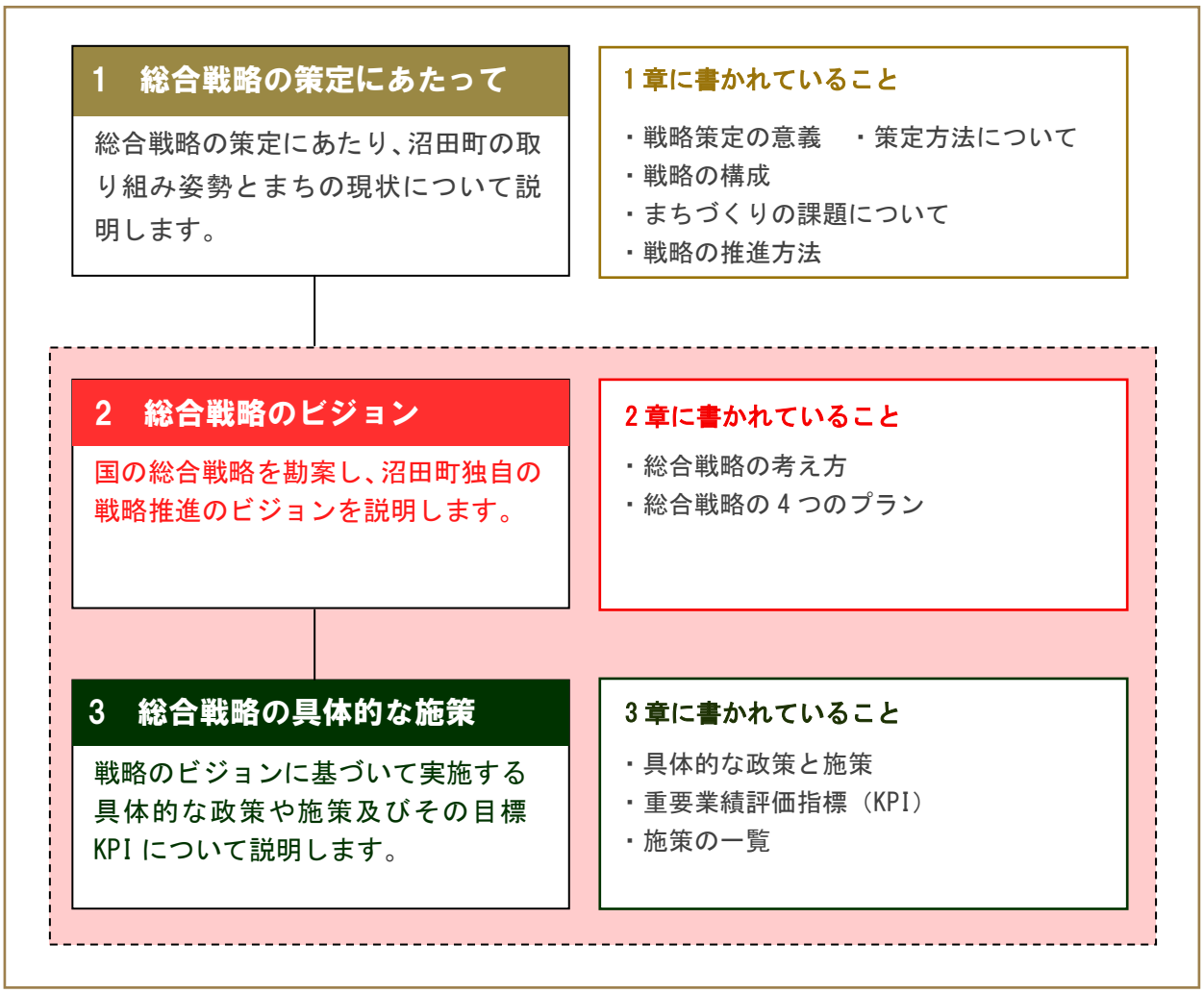
コンパクトタウン構想は、市街地の歩いて暮らせる範囲に医療福祉・買い物・住まい等の生活に必要なサービスを集約し、まちをコンパクトにすることで雪国の課題を解決する取り組みです。本州と比べて土地所有の歴史が浅い北海道という地域性を生かし、全国でも例の少ないコンパクトタウンの実現を住民とともに目指しています。また、まちに必要な医療福祉、起業、コミュニティなどについて学び、話し合うための場として「つながる塾」を開催し、将来のまちを担うひとづくりも進めています。

沼田町ならではの総合戦略を提案します

本戦略においては、国の戦略を基礎に、コンパクトタウン構想を戦略の柱とすることで、沼田町ならではの戦略を策定します。また、地方創生の担い手である住民とともに総合戦略を策定し、今後の事業も協働して推進して行きます。沼田町は、コミュニティデザインの手法を活用しながら、住民とともに参加型の地域づくりを行うことで、地方の小規模自治体における持続可能な事業運営と成長を実現し、全国の地方創生のモデルとなることを目指します。

1－２戦略の構成

本戦略は、以下の３つの章で構成されています。第１章では、戦略策定にあたっての沼田町の取り組み姿勢や沼田町の現状等を説明します。第２章では、国の総合戦略を勘案した沼田町ならではの戦略のビジョンと推進方法について説明します。第３章では、戦略のビジョンに基づいた具体的な政策や施策及びその重要業績評価指標（ＫＰＩ）について説明します。



1-３策定方法について

（１）総合戦略策定の手順

沼田町では、平成 25 年度より住民とともに継続的に話し合いを進めています。本総合戦略は、住民とともにまちづくりを推進するために開催した平成 25 年度・26 年度のヒアリング及びワークショップで話し合った意見を踏まえて、今年度の 7～8 月に約 30 名の有志の若者を中心にさらに話し合いを深め策定しました。

平成25年度

- 住民ヒアリング
- 職員ワークショップ（全１回）
- 住民ワークショップ（全１回）

庁内会議

→ **沼田町コンパクトタウン構想**

前年度の意見を勘案

平成26年度

- これから塾（住民勉強会・全４回）
- 多職種連携ワークショップ（全５回）
- つながる塾（住民ワークショップ・全５回）

庁内会議

→ **沼田町コンパクトタウン計画**

前年度の意見を勘案

平成27年度

- 第１回　総合戦略 住民ワークショップ
- 第２回　総合戦略 住民ワークショップ

庁内会議　町民意見聴取

→ **沼田町総合戦略**

（2）住民との協働

①平成 25～26 年度の取り組み

沼田町では、平成 25 年度より住民とともに継続的にまちづくりの話し合いを進めています。平成 25 年度はコンパクトタウン構想を住民とともに策定するにあたり、住民ヒアリング・職員ワークショップ・住民ワークショップを開催し、まちづくりに対する様々な意見を集めました。住民ヒアリングは、平成 25 年度に計 6 日間に渡り実施し、計 29 団体（66 名）の意見を聞きました。職員ワークショップは、全 1 回実施し計 14 名の職員が参加しました。住民ワークショップは、全 1 回開催し計 50 名の住民が参加しました。

平成 26 年度はコンパクトタウン構想を住民とともに推進するにあたり、これから塾(医療福祉・起業・コミュニティ等の勉強会)、多職種連携ワークショップ、つながる塾(住民ワークショップ)を開催しました。これから塾は、医療福祉分野の地域づくりの実践者を講師に招き勉強会を行いました。平成 26 年度に全 4 回開催し、延べ 221 人が参加しました。多職種連携ワークショップは、住民主体のまちづくりを推進していくための医療・福祉・商業・行政等の関係者の連携を目的に開催しました。全 5 回のワークショップを開催し、延べ 106 名が参加しました。つながる塾は、全 5 回開催し、延べ 192 名が参加しました。つながる塾では、話し合いを進める中で、まちづくりの活動を推進する 7 つの住民チームが生まれました。平成 26 年 1 月には、全町民を対象にチーム活動の企画や進捗についての報告会を開催しました。住民チームは、現在も活動を継続しています。

つながる塾の話し合い

市街地の地図を使った話し合い

模型を使った話し合い

7 つの住民チームが生まれる

現在も住民活動が継続

住民チームの活動報告会

医療福祉チームの予防・健康づくり活動

②平成 27 年度の取り組み（総合戦略策定ワークショップ）

前年度までに住民とともにまちづくりについて話し合った内容を前提に、今年度は若い世代を中心に総合戦略策定について話し合いました。総合戦略策定のためのワークショップは、平成 27 年 7～8 月に全 2 回開催し、20～30 代中心に参加者は延べ 75 人でした。

第 1 回ワークショップは、若い世代に広く意見を聞くための手法として、会場をカフェのような楽しい雰囲気につくり、話し合いを進めました。つながる塾の住民チームの 1 つ『カフェづくりチーム』のメンバーが主体となり、地域の食材を使用したパンやスイーツづくりを行い、沼田町に 1 日限定のカフェをオープンしました。カフェのような話しやすい雰囲気の中、20～30 代を中心とした参加者は、「若い世代にとって暮らしやすいまち」について話し合いました。このように、つながる塾の住民チームと協働して事業を行うことで、住民主体のまちづくりをさらに推進するとともに、若い世代の起業をまちが一体となって支援します。

第 2 回ワークショップは、第 1 回参加者の中から有志のコアメンバーが集まり話し合いを行いました。ワークショップでは、前年度までの住民の意見、コンパクトタウン構想の考え方、前回ワークショップの意見をもとに、「まちで実現したいしごとづくり」や「起業するために必要なサポート」、また「女性が仕事を続けるために必要なサポート」について話し合いました。

第 1 回 総合戦略策定ワークショップ：若い世代の意見を広く聞く

第２回 総合戦略策定ワークショップ：コアメンバーで戦略を話し合う

1-4 まちづくりの課題（施策策定の背景）

（1）住民の意見のまとめ

沼田町の課題については、平成 25～27 年度までに行った沼田町で活動する個人や活動団体等へのヒアリング、住民や行政職員を対象としたワークショップ等における意見をもとに抽出しました。主な課題は以下のとおりです。

① 医療福祉：自分たちの健康は自分たちで守る

まちには高度医療や入院機能を担う病院がありません。住み慣れた沼田で最期まで暮らし続けるために、沼田町では、「自宅が病室、地域が病院」と考え、在宅医療や看取り体制の充実した地域医療福祉の実現が求められています。また、医療や介護に頼らないために、予防や健康づくりを実践し、自分たちの健康は自分たちで守ることを目指します。

② 交通・買い物：施設が分散しており、車がなければ生活できない

沼田町は小さいまちながらも、医療・福祉・買い物・行政等の施設が分散しており、車がなければ生活が不便です。公共交通機関のアクセスも良くないことから、交通弱者である高齢者には医療や買い物等が大きな負担となっています。

③ 雪：年間の除雪費用は約 8,000 万円

沼田町は、冬期の積雪が約 2mとなる日本有数の豪雪地帯です。そのため、年間の除雪費用は約 8,000 万円にのぼります。まちをコンパクトにすることで、除雪範囲を小さくすることが可能となります。

④ 空き家：高齢者世帯の増加で市街地の空き家が増える

市街地には空き家が多く見られます。また、高齢者単独世帯は年々増加していることから、今後も空き家は増え続けることが予測されます。一方で、若い世代の住まいは不足していることから、空き家の有効活用が求められています。

⑤ 住まい：若者の移住・定住にはデザインが必要

まちなかに、若い世代が暮らしたくなるような魅力的な住宅が無いという意見が多くあります。若い世代の移住・定住のポイントの 1 つは住宅のデザインです。市街地の空き家を活用し、魅力的な住宅にリノベーションすることで、若い世代の移住・定住を促進します。

⑥ 農業：介護ではなく農業に従事できる環境づくり

沼田町の基幹産業は農業ですが、高齢化と後継者不足の課題があります。農業従事者の 4 割が 65 歳以上の高齢者です。また、農家 168 戸中、約 4 割に後継者がいないため、後継者や新規就農者の確保が必要です。さらに、農家 168 戸中、約 7 割が高齢の親と同居しており、将来の介護の不安を抱えています。親が町内で安心して暮らし、介護ではなく農業に従事できる環境づくりが求められています。

⑦ しごとづくり・働き方：冬期の若者や女性のしごとづくりが農業支援になる

沼田町は豪雪地帯であるため、冬期は農業収益を上げることが非常に厳しい状況にあります。従って、沼田町の農業者は、冬期は除雪関連の仕事など農業以外の仕事に従事している方が多くみられます。冬期間に若い農業者や女性の仕事があれば安定した収入が得られ、農業従事者の確保に繋がるものと思われます。

⑧ 子育て：福祉の女性は子育てとの両立が難しい

町内の医療福祉施設は、女性の雇用確保に大きく貢献しています。女性の就労者数では、基幹産業の農業に続くのが医療福祉従事者です。福祉施設で働く女性は、夜間や休日に勤務があることもあります。しかし、まちにはその働き方を支援する託児施設は無く、子育てとの両立は難しいという意見がありました。町内で働く女性の多様な働き方の支援が求められています。

⑨ 出会い・結婚：職場を超えたつながりが必要

若い世代のテーマ型のコミュニティが少なく、職場を超えた繋がりが少ないという意見が多くありました。また、町内には若い世代が気軽に集まれる場が無いという意見もありました。職場単位のつながりが強く、気軽に入れるコミュニティがないことは移住者にとっては大きな課題であり、この解決なしには移住者の増加や若者の定住は難しいと言えます。

まち（地域課題）

①「医療福祉」に関する課題

・まちには入院できる病院がないので、自宅で介護や看取りをすることも必要。
・予防や健康づくりを促進し、まちの医療費の負担を削減していきたい。

②「交通・買い物」に関する課題

・交通弱者の高齢者も買い物できるしくみを創っていきたい。
・施設が分散しており、車が無いと生活が不自由する。

③「雪」に関する課題

・まちをコンパクトにして除雪範囲を減らしたい。
・冬期の生活に不安の少ない暮らしを実現したい。

④「空き家」に関する課題

・市街地に増え続けている空き家を再生し、活用していきたい。

⑤「住まい」に関する課題

・高齢者世帯が増加しているので、冬期の除雪の支援をしていきたい。
・まちに若い世代が暮らしたくなるようなデザインの優れた住まいを造りたい。

しごと

⑥「農業」に関する課題

・農業従事者が高齢化しているので、後継者や新規就農者を確保したい。
・親と同居している農家が多く、介護ではなく農業に専念できる環境づくりをしたい。
・冬期間も農業に関する仕事がほしい。

⑦「しごとづくり・働き方」に関する課題

・冬にできる仕事は除雪等の男性のしごとばかりで、女性の働きたい仕事が少ない。
・手づくり品を製造したり、販売できる場所があったらやってみたい。
・女性の多様な働き方を可能にするしごとや職場を創っていきたい

子育て・結婚

⑧「子育て」に関する課題

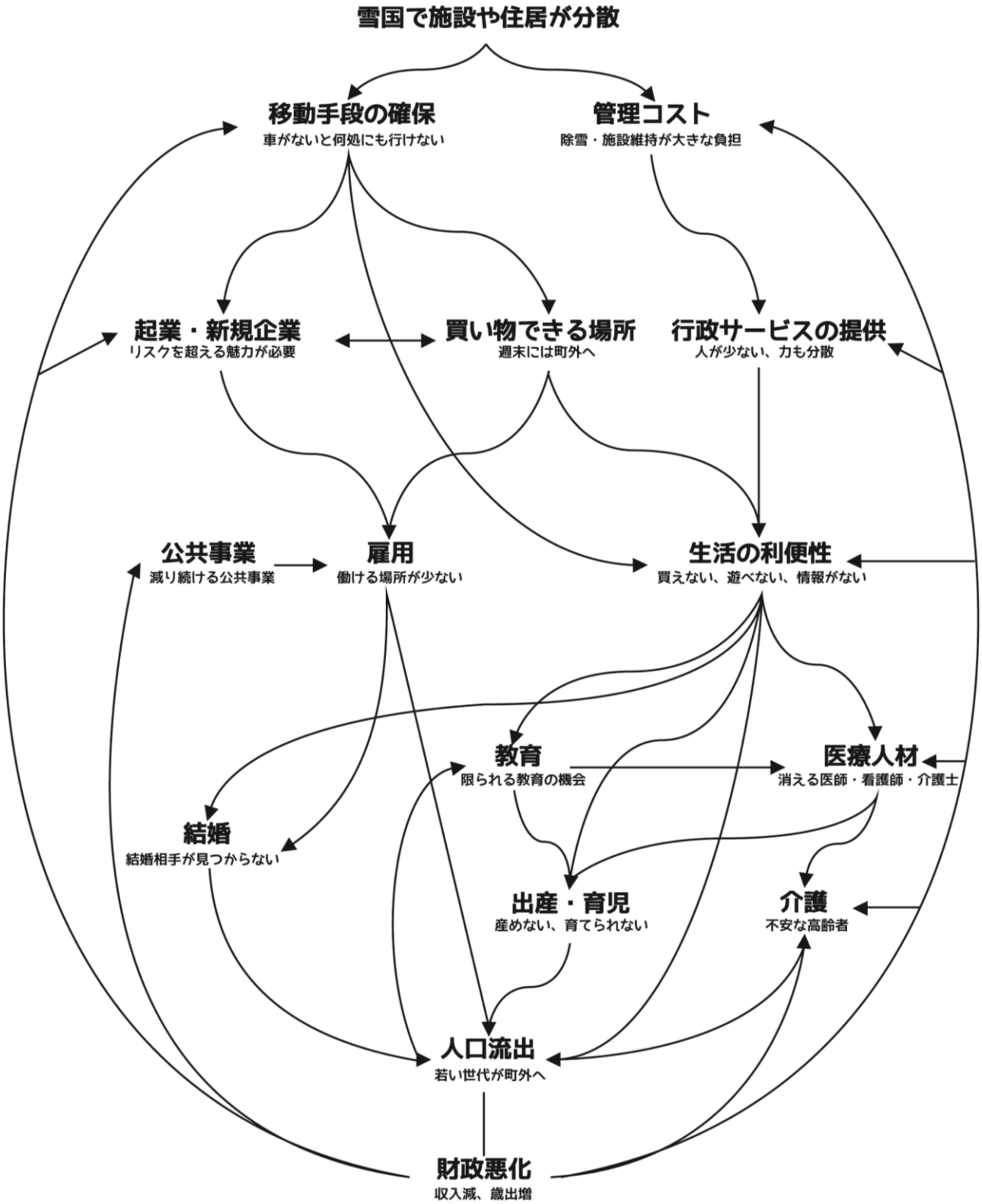
・休日や夜間、病児保育など子育てと仕事を両立させる環境を創りたい。
・子どもには、自分の頭で考え、社会で生き抜く力が身につく教育を受けさせたい。

⑨「出会い・結婚」に関する課題

・職場以外の繋がりが少ないので、若者が集まって活動できる場を創りたい。
・テーマ型のコミュニティが少ないので、転入者はなかなか友達ができない。

（2）課題の構造化

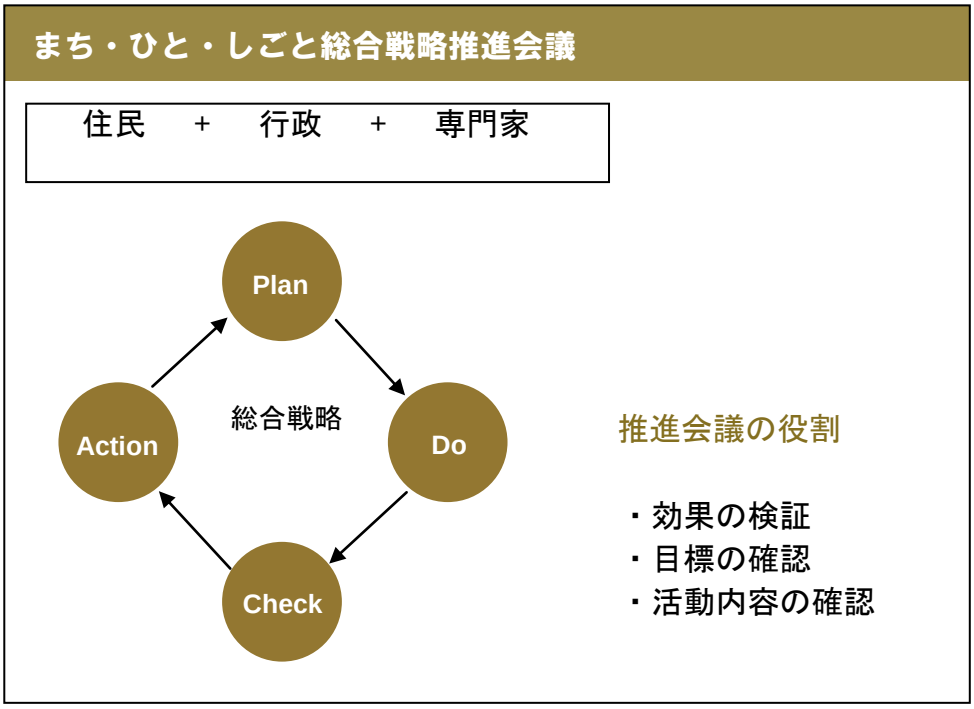
まちの課題を分析し、構造化したものが以下の図です。雪国の様々な課題を解決するには、まちに分散している住まいや施設を集約しコンパクトタウンを目指すことが効果的であると考えています。



1－5 総合戦略の推進方法

総合戦略の事業は、つながる塾のコアメンバーを中心とした住民と行政が協働して推進します。

戦略の期間中は、事業の達成度や時代潮流の変化を確認するために定期的な見直しを行います。総合戦略で実施する各施策には、重要業績評価指標（ＫＰＩ）を設定し、達成度や効果等を客観的に検証し、継続的に事業を改善していきます。このような仕組みを推進していくために、ＰＤＣＡサイクルを担う「まち・ひと・しごと総合戦略推進会議」を立ち上げました。会議のメンバーは、産官学金労言及び住民の代表者等から構成され、協働によるまちづくりを進めていきます。

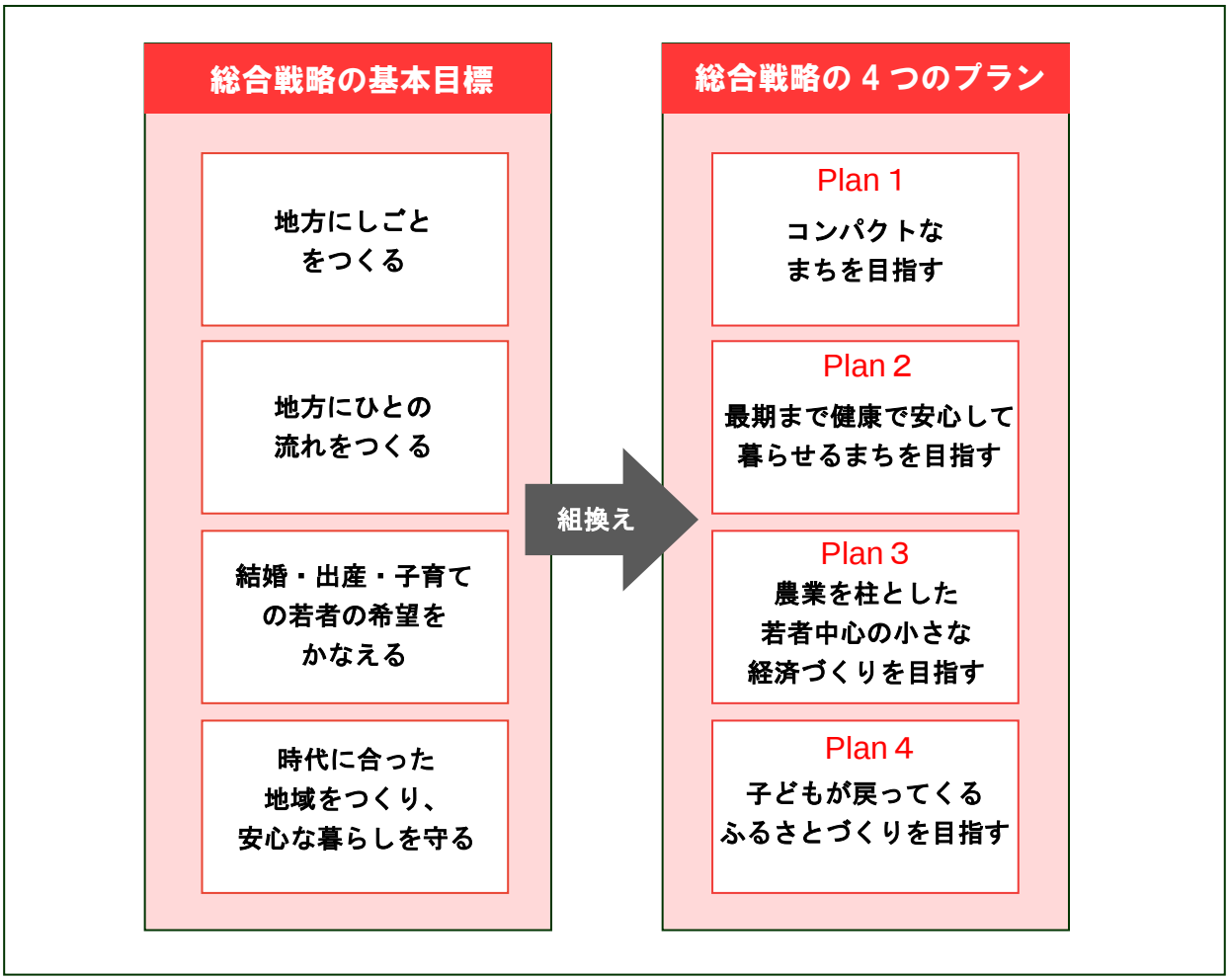


２．総合戦略のビジョン

２-１　総合戦略の考え方

沼田町では、内閣府から地域活性化モデル事業として選定された「沼田町農村型コンパクトエコタウン構想(※以下コンパクトタウン構想)」を住民とともに進めています。今回の総合戦略においてもコンパクトタウン構想を中心とし総合戦略の事業を推進します。

沼田町の総合戦略は、国の総合戦略の柱に沿った基本目標である「地方にしごとをつくる」「地方にひとの流れをつくる」「結婚・出産・子育ての若者の希望をかなえる」「時代に合った地域をつくり安心な生活を守る」を基本目標に、沼田町ならではの戦略のビジョンを提案します。沼田町は、コンパクトタウン構想に基づいた以下の４つのプラン(重点戦略)で総合戦略を推進し、沼田町ならではの好循環を創ります。



2-2　総合戦略の４つのプラン

（1）好循環を創る４つの重点戦略

沼田町は、コンパクトタウン構想を中心とした以下の４つのプラン（重点戦略）で総合戦略を推進し、沼田町ならではの好循環を創ります。

行政と住民が協働して事業を推進する場合には、まちが目指すべきビジョンを共有することが大切です。好循環を創るビジョンを共有し、実現のために行政と住民の各々が何をすべきかを理解して初めて、そのスキームに沿って全ての事業や活動を実施することができます。

本節の最後に、沼田町の好循環を創るビジョンと行政と住民がすべきことについて図にまとめました。行政と住民が同じ未来を目指し、以下のプランに沿って協働で事業を推進することで、地域が成長し続ける真の地方創生を目指します。

① Plan1 コンパクトなまちを目指します

Plan１では、平成25年度より継続して住民と共に進めている沼田町コンパクトタウン構想を中心に、コンパクトなまちを目指します。市街地の中心部に医療福祉・買い物・住宅等の施設を集約させることで住民の生活を支える小さな拠点を整備します。また、雪国の冬期の交通、買い物、医療、除雪等の課題を解決するため、高齢者に市街地の小さな拠点周辺の住宅に住み替えてもらうことでまちのコンパクト化を図ります。さらに、高齢者が住み替えた市街地の空き家を若い世代向けにリノベーションを行うことで、デザイン性の高い魅力的な住まいづくりを行います。このように、市街地の歩いて暮らせるコンパクトなエリアに、小さな拠点施設や高齢者及び若い世代の住まいを集約することで、雪国の課題を解決するコンパクトタウンの実現を目指します。

② Plan2 最期まで健康で安心して暮らせるまちを目指します

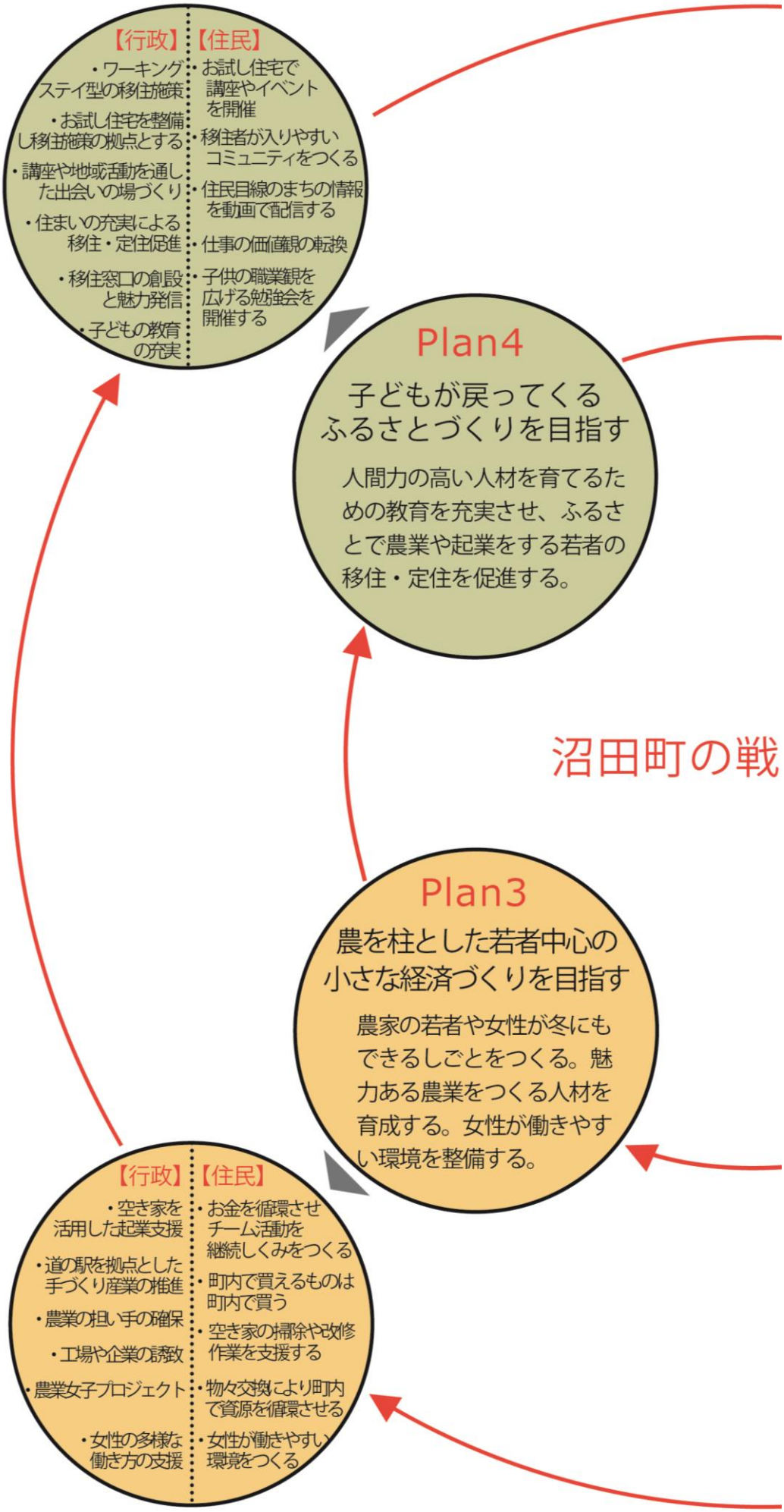
Plan２では、最期まで健康で安心して暮らせるまちを目指します。入院できる病院が町内にない沼田町では、Plan１で整備する医療福祉施設を拠点に、高齢者の在宅医療福祉を推進し、最期に看取りをしてもらえるまちを目指します。また、医療福祉施設周辺の住まいに高齢者の住み替えを促進することで、高齢者の安心な生活を実現するとともに地域医療福祉の効率化を図ります。また、暮らしの保健室を拠点に、高齢者の医療を含む相談支援、生活習慣病や介護予防、健康づくり、子育て支援等、多世代型の地域包括ケアを実現し、誰にとっても安心なまちづくりを目指します。また、予防及び健康活動に力を入れることで医療費負担を削減し、その財政により子育て支援をさらに充実したものとします。

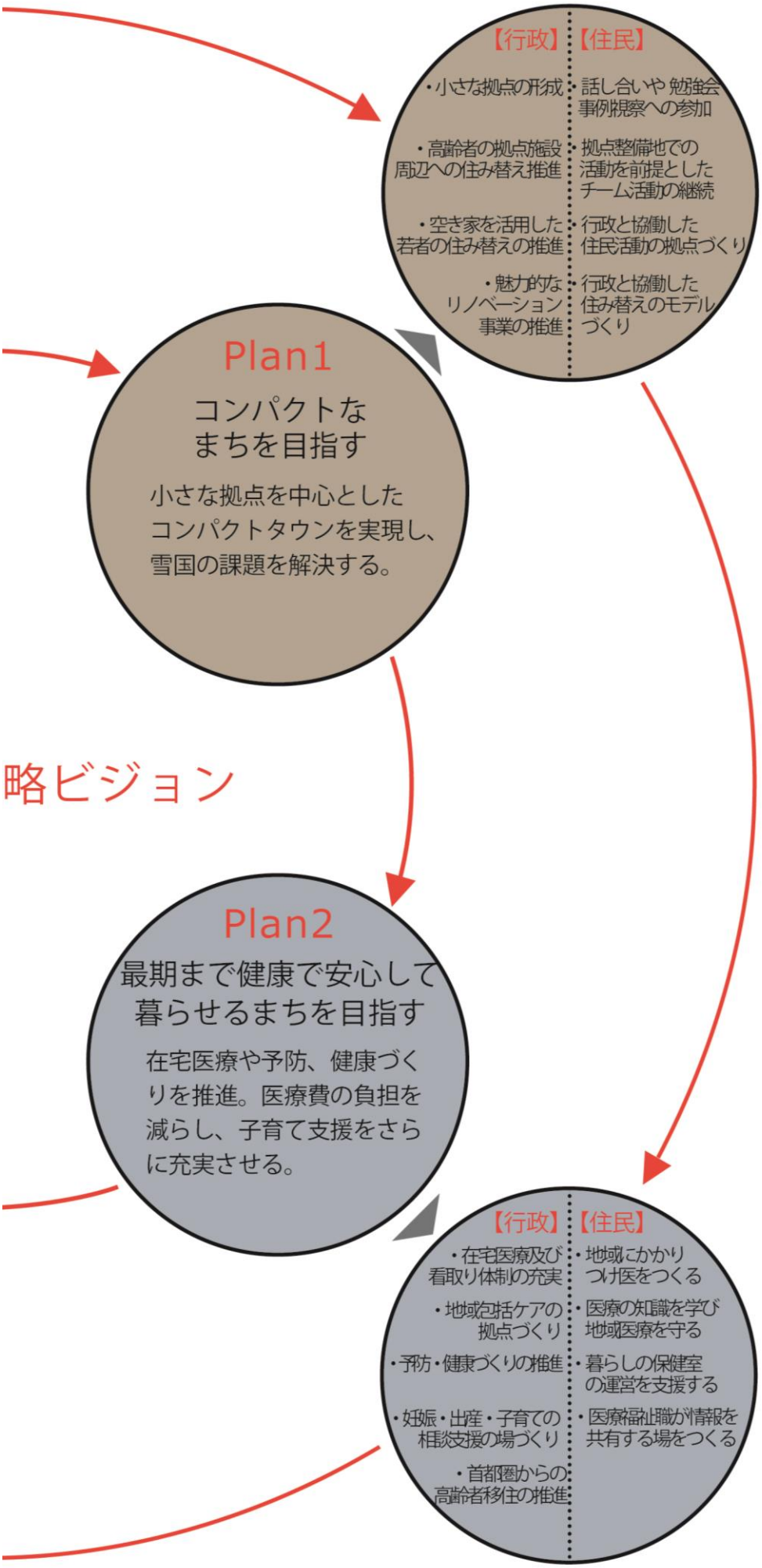
③ Plan３ 農業を柱とした若者中心の小さな経済づくりを目指します

Plan３では、農業を柱とした若者中心の小さな経済づくりを目指します。沼田町は豪雪地帯であるため、まちの基幹産業である農業従事者は、冬期は農業以外の仕事に従事している方が多くみられます。しかし、冬にできる仕事は除雪等の男性の仕事ばかりであり、女性が働きたくなるような仕事は少ないのが現状です。このことから、冬にもできる女性が働きたくなるような仕事をつくることで農業従事者の支援を行うとともに、農家以外の女性の移住・定住支援を目指します。若者や女性の起業支援として、まちの課題となっている市街地の空き家を活用し、若い世代向けのデザイン性の高いカフェ等の店舗へのリノベーションを推進します。また、小さな拠点に工房付の道の駅を整備し、商品づくりや農産物の販売を可能にします。さらに、女性の多様な働き方を実現するための子育てや職場の環境づくりを行います。このように、農業従事者が子育てと両立しながら、冬期は市街地の空き家を活用したカフェで働いたり、健康志向のレストランにこだわりの農産物を提供したり、道の駅でクリエイティブな手づくり品の加工や販売を行ったり、ＩＴを活用しながら自宅で仕事をする等、若い世代や女性の働き方の選択肢を増やすことで沼田町の農業をさらに魅力的なものとします。これらは、若い世代や女性が主体となって創る小さくても地域で資源やお金が循環する持続可能な地域経済の戦略です。これにより、意識の高い若い世代の移住・定住の促進を目指します。

④ Plan4　子どもが戻ってくるふるさとづくりを目指します

Plan４では、子どもがふるさとに戻り起業できる生き方を実現するまちを目指します。Plan1～3 で推進する沼田町での新しいライフスタイルや働き方を実現できる若い世代の移住・定住を支援します。企業等、大きな雇用の場が少ない沼田町では、第１段階として手に職があり自分で自分の仕事を創れる起業者や農業従事者等の移住を優先的に促進するワーキングステイ型の移住を支援します。第２段階として東京や札幌等の都会の子育て世代の移住を促進します。また、子どもがふるさとで仕事を創る生き方ができるような人間力の高い人材を育てるための生涯にわたる教育を充実させます。これにより、進学時に転出した子どもがふるさとに戻って起業するような持続的にまちが成長する循環型の人づくりを行います。


【行政】
・ワーキングステイ型の移住施策
・お試し住宅を整備し移住施策の拠点とする
・講座や地域活動を通した出会いの場づくり
・住まいの充実による移住・定住促進
・移住窓口の創設と魅力発信
・子どもの教育の充実
【住民】
・お試し住宅で講座やイベントを開催
・移住者が入りやすいコミュニティをつくる
・住民目線のまちの情報を動画で配信する
・仕事の価値観の転換
・子供の職業観を広げる勉強会を開催する
Plan4
子どもが戻ってくる
ふるさとづくりを目指す
人間力の高い人材を育てるための教育を充実させ、ふるさとで農業や起業をする若者の移住・定住を促進する。
沼田町の戦
Plan3
農を柱とした若者中心の
小さな経済づくりを目指す
農家の若者や女性が冬にもできるしごとをつくる。魅力ある農業をつくる人材を育成する。女性が働きやすい環境を整備する。
【行政】
・空き家を活用した起業支援
・道の駅を拠点とした手づくり産業の推進
・農業の担い手の確保
・工場や企業の誘致
・農業女子プロジェクト
・女性の多様な働き方の支援
【住民】
・お金を循環させチーム活動を継続しくみをつくる
・町内で買えるものは町内で買う
・空き家の掃除や改修作業を支援する
・物々交換により町内で資源を循環させる
・女性が働きやすい環境をつくる

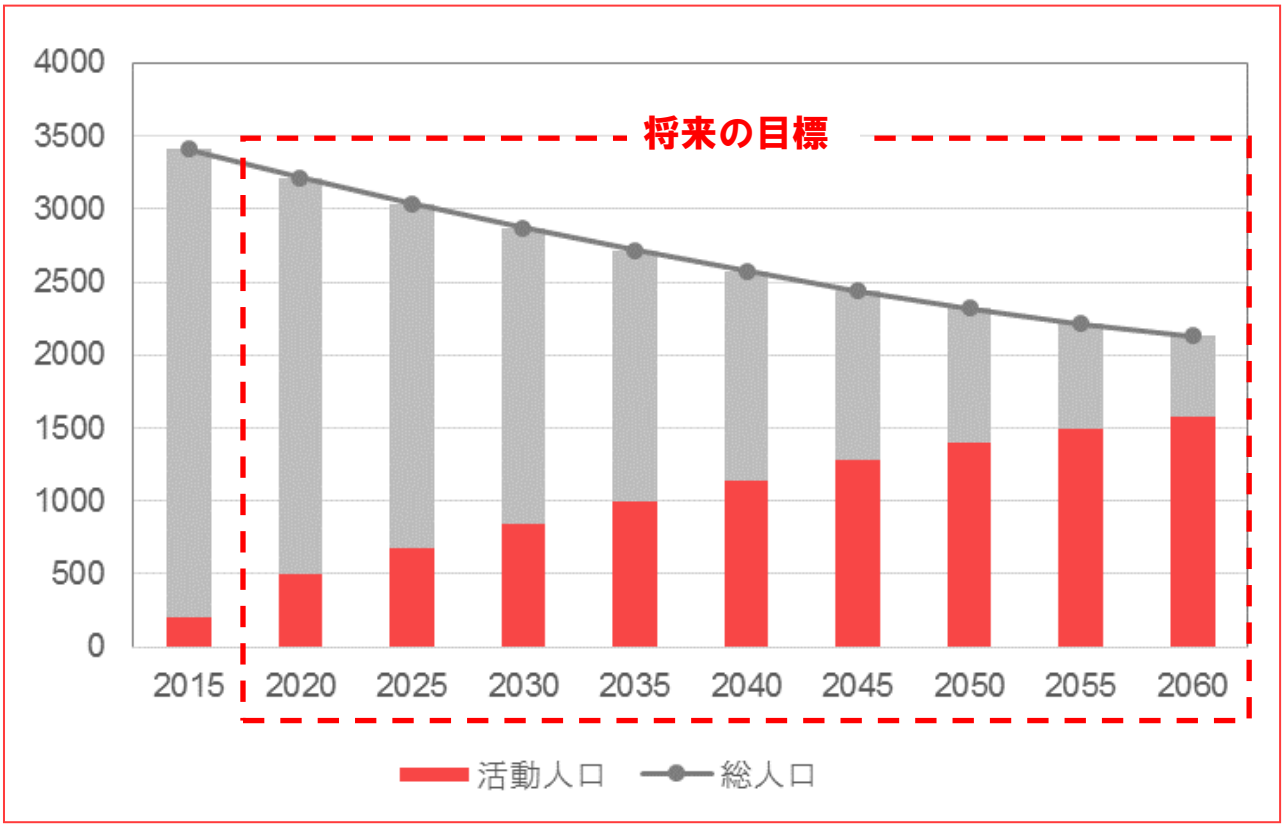

【行政】
【住民】
・小さな拠点の形成
・話し合いや勉強会
事例視察への参加
・高齢者の拠点施設
周辺への住み替え推進
・拠点整備地での
活動を前提とした
チーム活動の継続
・空き家を活用した
若者の住み替えの推進
・行政と協働した
住民活動の拠点づくり
・魅力的な
リノベーション
事業の推進
・行政と協働した
住み替えのモデル
づくり
Plan1
コンパクトな
まちを目指す
小さな拠点を中心とした
コンパクトタウンを実現し、
雪国の課題を解決する。
略ビジョン
Plan2
最期まで健康で安心して
暮らせるまちを目指す
在宅医療や予防、健康づく
りを推進。医療費の負担を
減らし、子育て支援をさら
に充実させる。
【行政】
【住民】
・在宅医療及び
看取り体制の充実
・地域にかかり
つけ医をつくる
・地域包括ケアの
拠点づくり
・医療の知識を学び
地域医療を守る
・予防・健康づくりの推進
・暮らしの保健室
の運営を支援する
・妊娠・出産・子育ての
相談支援の場づくり
・医療福祉職が情報を
共有する場をつくる
・首都圏からの
高齢者移住の推進

（2）住民主体のまちづくり：活動人口を増やし人口減少時代に対応する

沼田町は、住民と共に総合戦略の事業を推進します。総合戦略における住民主体のまちづくりの評価の指標として、活動人口の増加を達成度の基準とします。

総合戦略において、人口減少を緩やかにする対策を行うとともに、まちづくりの活動に参加する活動人口を増やします。活動人口を増やし、住民と行政が協働してまちづくりを行うことで、人口減少時代にも質の高いサービスを実現できるまちを目指します。

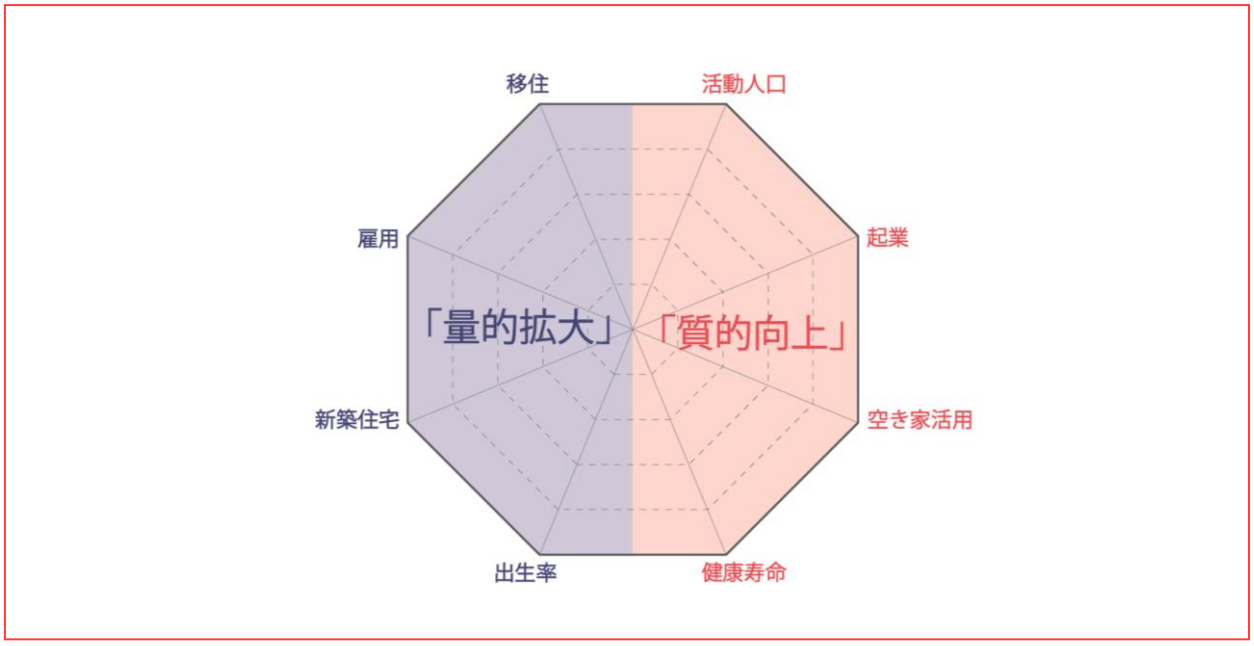
まちの将来を考え、自ら行動できる意識の高い住民や行政職員の数で未来は大きく変わります。沼田町は住民参加の事業を通して、住民と行政職員の意識改革に取り組んでいます。



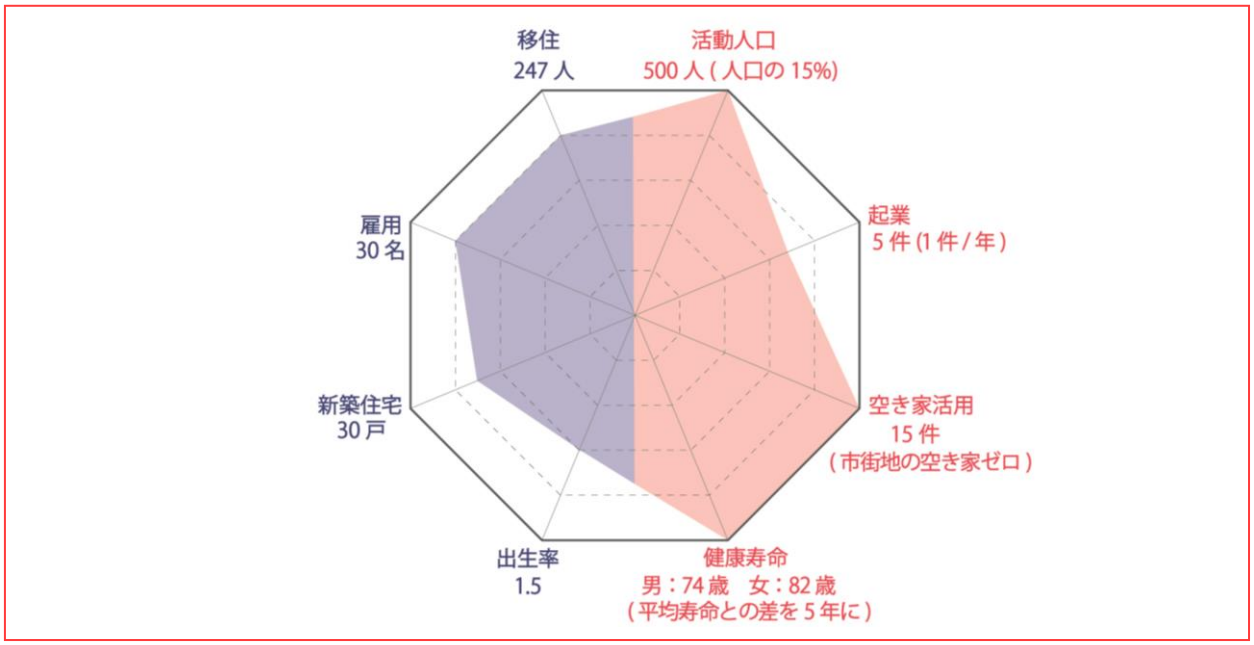
（3） まちの質的向上を評価し「強いまち」を目指す

地方の小規模自治体が持続的に成長を続けるためには、人口減少時代のキーワードに基づいた、まちの「質的向上」が必要だと考えています。それは、大企業に負けない技術力や意識の高いスタッフを育てる中小のベンチャー企業の組織づくりに例えることができるかもしれません。沼田町は、移住者の促進や雇用の場の確保といったまちの規模に関わる「量的拡大」を目指すとともに、活動人口や新しく仕事をつくる起業者などまちづくりを担う人材の育成や空き家の活用などまちの課題を解決する取り組みを促進するまちの「質的向上」を目指します。まちの「質的向上」に重点を置き総合戦略を推進することで、人口減少時代を生き抜く強い体質のまちを目指します。

まちの「質的向上」を目指す指標



総合戦略で沼田町が目指す目標



３．総合戦略の具体的な施策

3-1 コンパクトなまちを目指す(Plan１)

（1） 基本目標

コンパクトな環境型のまちを目指し、平成 31 年度の目標を以下とします。

指標	基準値	目標
小さな拠点の整備で生活しやすくなったと思う町民の割合	41.5%	50%

（2） 基本方針

以下の 2 つの方針に基づき各施策を展開します。

① 方針 1：医療福祉・買い物等の小さな拠点づくり

平成 25 年度から継続して、市街地中心部に医療福祉施設・買い物・住まい等の施設を集約させた小さな拠点づくりを住民と共に進めています。Plan1 では、小さな拠点の計画施設の中でも特に優先度の高い施設を整備します。

② 方針 2：市街地への住み替えによるコンパクトタウンの実現

雪国の冬期の交通、買い物、医療、除雪等の課題を解決するため、高齢者に市街地の小さな拠点周辺の住宅に住み替えてもらうことで、まちのコンパクト化を図ります。さらに、高齢者が住み替えた市街地の空き家を若い世代向けにリノベーションを行うことで、デザイン性が高い魅力的な住まいづくりを行います。このように、市街地の歩いて暮らせるコンパクトなエリアに、小さな拠点施設や高齢者及び若い世代の住まいを集約することで、雪国の課題を解決するコンパクトタウンを実現します。

（3）具体的な施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

以下に、具体的な施策と重点業績評価指標を示します。

方針１：医療福祉・買い物等の小さな拠点づくり

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策１：小さな拠点の形成 歩いて暮らせるコンパクトな範囲に生活に必要な施設やサービスを集約するため、医療・福祉・買い物・交通等の小さな拠点を形成します。 **【具体的事業】** ・商業コミュニティ中核施設建設事業 ・地域密着多機能型総合センター建設事業 （診療所・地域安心センター・ディサービス） ・地域支えあい館建設事業（高齢者生活支援ハウス・多目的センター） ・一般公営住宅建設事業	生鮮食料品町内購買率 50% 医師及び医療体制の維持における１日の平均来院数 2 名・100 人

方針２：市街地への住み替えによるコンパクトタウンの実現

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 2：高齢者の拠点施設周辺への住み替え促進 高齢者を対象に、市街地の医療施設周辺の住まいや高齢者支援住宅への住み替えを推進し、コンパクトなまちを実現します。また、高齢者が安心して生活が続けられるよう、交通弱者の生活を支える交通システムを構築します。 **【具体的事業】** ・高齢者住み替え促進事業 ・地域支え合い館建設事業（高齢者生活支援ハウス・多目的センター） ・交通弱者の生活を支える交通システムの構築	高齢者の住替え件数 10 件
◆施策 3：若者の空き家を活用した住み替え促進 市街地の空き家のリノベーションを行い、デザイン性の高い若者向けの住宅として再生します。 **【具体的事業】** ・リノベーション住替え等促進事業	市街地の空き家活用件数 10 件

3-2 最期まで健康で安心して暮らせるまちを目指す(Plan2)

（1）基本目標

最期まで健康で安心して暮らせるまちを目指し、平成 31 年度の目標を以下とします。

指標	基準値	目標
６５歳以上の健康寿命（男性）	70.42 歳（国）	74.0 歳
６５歳以上の健康寿命（女性）	73.62 歳（国）	82.0 歳
合計特殊出生率	1.32	1.50

（2）基本方針

以下の 3 つの方針に基づき各施策を展開します。

① 方針 1：住みなれた沼田で最期が迎えられる医療福祉体制の充実

入院できる病院が町内に無い沼田町では、Plan 1 で整備する医療福祉施設を拠点に、高齢者の在宅医療福祉を推進し、最期に看取りをしてもらえるまちを目指します。

さらに医療福祉施設周辺の住まいに高齢者の住み替えを進めることで、高齢者の安心な生活を実現するとともに地域医療福祉の効率化を図ります。

② 方針 2：「暮らしの保健室」を拠点とした地域包括ケアの実現

医療福祉施設内の暮らしの保健室を拠点に、高齢者の医療を含む相談支援、生活習慣病や介護予防、健康づくり等、多世代型の地域包括ケアを実現します。また、予防及び健康活動に力を入れることで医療費負担を削減し、その財源で子育て支援をさらに充実したものとすることで、町民誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりを目指します。

③ 方針３：「暮らしの保健室」を拠点とした出産・子育て支援の充実

小さな拠点整備のⅢ期事業として、子育て支援住宅や子どもの遊べる広場づくりを行います。また、暮らしの保健室を活用し、出産や子育ての相談支援の場づくりを行い、若い世代が安心して出産・子育てができるように、経済的な支援を拡充します。

（３）具体的な施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

以下に、具体的な施策と重点業績評価指標を示します。

方針１：住みなれた沼田で最期が迎えられる医療福祉体制の充実

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策４：在宅医療及び看取り体制の充実 医療福祉施設を拠点に、高齢者の在宅医療福祉を推進し、最期に看取りをしてもらえるまちを目指します。 **【具体的事業】** ・在宅サービス（除雪・生き生きディサービス）事業 ・在宅介護サービス利用奨励手当支給事業 ・外出支援サービス事業 ・ヘルパー派遣（24 時間対応）事業 ・高齢者等日常生活支援事業	高齢者が将来、介護が必要になった場合の生活において「自宅で生活したい」と思う割合 55%
◆施策５：多職種連携体制の強化 在宅医療福祉推進のため、多職種の連携体制を強化し、顔の見える関係づくりを行います。 **【具体的事業】** ・多職種連携強化事業	他職種連携会議の開催 年６回
◆施策６：医療福祉の経済的支援 町民が健康で暮らすことができるための検診や予防接種等が受けやすくなる支援を行います。 **【具体的事業】** ・季節性インフルエンザ任意予防接種費用助成事業 ・各種がん検診等費用助成事業 ・若年特定健診全額助成事業	費用助成による患者数減

方針２：「暮らしの保健室」を拠点とした地域包括ケアの実現

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策７：地域包括ケアの拠点づくり 小さな拠点内に、地域包括ケアの推進のため、高齢者の医療を含む相談支援と見守りを行う「暮らしの保健室」を開設します。専門スタッフが常駐し、医療の提供が必要な人には適切な医療機関へ繋ぎ、町民の健康と地域医療を守ります。 **【具体的事業】** ・暮らしの保健室開設事業 ・医療福祉コーディネーター事業	「暮らしの保健室」来訪者数 年間 1,000 人
◆施策８：暮らしの保健室を拠点とした予防・健康づくりの推進 小さな拠点内の「暮らしの保健室」に併設したコミュニティカフェを活用し、予防や健康づくりを行います。 **【具体的事業】** ・コミュニティカフェ開設事業 ・高齢者等見守り事業 ・介護予防事業 ・健康運動指導事業 ・特定健診受診事業 ・高齢者等温泉入浴促進事業 ・おはようラジオ体操の開催	高齢者が運動指導により体力が向上した改善率 前年比増
◆施策９：高齢者世帯への経済的支援の充実 高齢者世帯が安心して暮らせるよう経済的支援を行います。 **【具体的事業】** ・高齢者任意肺炎球菌予防接種費用助成事業 ・高齢者世帯等福祉灯油助成事業 ・高齢者等入院交通費助成事業 ・高齢者世帯除雪費助成事業 ・高齢者ハイヤー利用助成事業 ・「この町に住んで良かった」住環境整備費助成事業	高齢者の現在の状況において「自分は健康である」と意識している割合 75%

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 10：首都圏からの高齢者移住の推進 首都圏の高齢者が見守りのある安心なまちで、いきいきとした生活を送ることができるよう移住を促進します。 **【具体的事業】** ・沼田版ＣＣＲＣ推進事業 ・リノベーション住替え等促進事業 ・いきいき大学 ・こども応援団ボランティア事業	首都圏からの元気な高齢者の移住者数 6 人

方針３：「暮らしの保健室」を拠点とした出産・子育て支援の充実

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 11：出産・子育ての相談支援の場づくり 小さな拠点内の「暮らしの保健室」に併設したコミュニティカフェを活用し、出産や子育ての正しい知識の提供と精神的なケアを行う相談支援の場をつくります。 また、気軽に話し合える女性のコミュニティづくりも併せて行います。 **【具体的事業】** ・マタニティクラブの開設 ・産後の子育て安心事業 ・子育てカフェ交流事業 ・子育て教室「ほっとママ」の開設 ・幼児のことばの発達検査及びことばの教室の開催	相談支援、コミュニティの場に参加する女性の人数 増
◆施策 12：子育て施設整備による小さな拠点の充実 小さな拠点に、子育て住宅や子どもの遊べる広場等を整備し、子育て世代の交流の場をつくります。 **【具体的事業】** ・子育て住宅建設事業 ・屋内グラウンド建設事業 ・広場整備事業	町外からの入居人数 8 人
◆施策 13：子どもの健康を守るための支援の充実 子どもの医療費や検査、予防接種等の経済的支援を拡充し、子どもの健康を守ります。 **【具体的事業】** ・成人風疹ワクチン予防接種助成事業 ・乳幼児等任意予防接種助成事業 ・乳幼児等医療費助成事業 ・乳幼児健康診査精密検査助成事業 ・乳幼児の歯科検診・フッ素塗布事業 ・中学生医療費助成事業	子育て世帯における子育て支援策の満足度 80%

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 14：第 2 子以降が安心して産める経済的支援の充実 第 2 子以降を産みやすい環境を整備するため、多子世帯の経済的負担を軽減するとともに、その他子育て世帯への助成を拡充します。 **【具体的事業】** ・第２子・第３子保育料軽減対策事業 ・子育て世帯応援通勤支援事業 ・子育て世帯冬期暖房費助成事業	子育て世帯における子育て支援策の満足度 80%
◆施策 15：妊娠及び出産の経済的支援の充実 安心して子どもが産めるよう、周産期に係る経済的支援を充実します。 **【具体的事業】** ・妊婦健康診査等受診交通費助成事業 ・妊婦一般健康診査助成事業 ・特定不妊治療費助成事業	子育て世帯における子育て支援策の満足度 80%

3-3 農業を柱とした若者中心の小さな経済づくりを目指す(Plan3)

（1）基本目標

農業を柱とした若者中心の小さな経済づくりを目指し、平成 31 年度の目標を以下とします。

指標	基準値	目標
雇用(新規設立農業生産法人含む)	―	30 人
起業	0 件	5 件
農業粗収入 1,000 万円以上の割合	87.5%	95%

（2）基本方針

以下の 4 つの方針に基づき各施策を展開します。

① 方針 1：農業を柱とした冬にもできる若者や女性のしごとづくり

沼田町は豪雪地帯であるため、まちの基幹産業である農業従事者は、冬期は農業以外の仕事に従事している方が多くみられます。しかし、冬にできるしごとは除雪等の男性の仕事ばかりであり、女性が働きたくなるようなしごとは少ないという意見が多くありました。このことから、冬にもできる女性が働きたくなるような仕事をつくることで農業従事者の支援を行うとともに、若い世代や女性が主体となって創る、地域でお金や資源が循環する持続可能な地域経済を実現します。

② 方針２：魅力ある農業を創る担い手の確保と育成

基幹産業である農業において、農家人口の減少や農業従事者の高齢化が進む中で、農業の持続的発展を図るためには、多様な担い手の育成・確保が重要であり、農業後継者の状況から労働力の不足が危惧されております。また、国の農業情勢が大きく変化することが予測される中で、沼田町の農業が他の町や国に負けない、更なる質の向上や生産性の高い農業へ進化していかなければなりません。これらのことから沼田農業の近代化への取組みを支援します。

③ 方針３：農業を主体とした工場・企業の誘致

農産物を販売する新たな雇用の創出や、地場産業の振興のため企業誘致活動を継続して行いますが、農業を主体とした雇用の創出を目指す企業と連携して、沼田工業団地に付加価値の高い農産物生産工場の誘致を推進します。

④　方針４：子育て世代の女性が働きやすい環境づくり

子育て世代の女性の多様な働き方の選択を可能とすることで、女性が働きやすい環境づくりを行います。また、高齢者福祉施設に休日及び夜間の託児ができないか検討し、可能となれば、女性の多様な働き方を支援すると共に、高齢者に託児のサポートを依頼することで、高齢者の生活の張りや生きがいづくりに繋がります。

コーディネート会社を創設し、福祉や高齢者の買い物や家事の支援、基幹産業である農業など町内の小さな仕事を募集し、短時間就労の希望者とのマッチングを行います。

（３）具体的な施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

以下に、具体的な施策と重点業績評価指標を示します。

方針１：農業を柱とした冬にもできる女性や若者のしごとづくり

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 16：空き家リノベーションによる若者の起業支援 まちの課題となっている市街地の空き家及び空き店舗を活用し、地元の農産物を活用したレストランやカフェ等を起業する若者を支援します。また、商工会と連携し、空き家を活用したチャレンジショップや期間限定としたウィークリーショップなどとして使用できるモデル施設づくりを行います。 **【具体的事業】** ・まちなかカフェ等創設事業 ・ひと・まち・しごと育成支援事業 ・地域おこし協力隊事業	カフェ等起業件数 2 件
◆施策 17：道の駅の整備による小さな拠点の充実 小さな拠点に工房を併設した道の駅を整備し、クリエイティブな手づくり産業を推進します。また、チャレンジショップの開設を目指し若者の起業支援を行い、住民が手づくり教室や講座を開催し活動を展開します。 **【具体的事業】** ・道の駅（地域交流館）建設事業 ・ひと・まち・しごと育成支援事業 ・６次産業化応援事業 ・ふるさと名物商品販売事業	6 次産業化新規加工商品数 3 品以上

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 18：特産品や農産加工品の販路拡大・商品開発の支援 沼田町の特産品である「雪中米」や「トマトジュース」等の更なる販路拡大のため、ふるさと納税者や東京にあるアンテナショップ、東京 23 区との交流等でＰＲを行うことにより販路を拡大します。 また、「沼田牛」のブランド化を図り、加工品として「幻の沼田黒毛和牛まん」として販売を推進します。 【具体的事業】 ・６次産業化応援事業 ・作付全道一加工用トマト推進事業 ・特産品販路開拓による販売促進及び情報発信拠点事業 ・ふるさと名物商品販売事業 ・沼田町交流感謝祭事業 ・北海道及び北空知広域圏による連携事業 ・北海道及び近隣町との広域連携による事業 ・「幻の沼田黒毛和牛」ブランド化の推進	特産品や農産加工品の新規販路成約件数 20 件

方針２ 魅力ある農業を創る担い手の確保と育成

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 19：魅力ある農業を創る新規就農、参入支援策の充実 農業経営者の高齢化や労働力不足の課題に対し、魅力ある農業を創る人材の確保と育成を行います。五ケ山地区にある就農支援実習センターを活用した新規就農育成プログラムを構築し、都市部から地域おこし協力隊による農業支援員を招聘した指導育成を行うことで、人材の確保と定住を図ります。また、農業系大学と連携し、農業繁忙期における大学生の受入を行うことで労働力の確保を図ります。 **【具体的事業】** ・農業新規就農対策事業 ・ほたるの里援農隊事業 ・農業研修生受入事業 ・地域おこし協力隊事業	新規就農を目指す研修生 6 人
◆施策 20：農業女子プロジェクトの推進 全国から農業を目指す女性を募り、町内農業者において研修をすることで女性の農業従事者の育成を図ります。また、定住促進のため研修生が宿泊できる施設が必要となることから、住生活基本計画等の見直しも行いながら整備を検討していきます。 **【具体的事業】** ・農業女子プロジェクト推進事業	育成後の定住者数 5 人
◆施策 21：農業生産法人化の推進 農業経営者の高齢化等から規模縮小や離農も想定され、新たな雇用の創出や労働力の確保を図ることで耕地面積を維持し、農業経営の複合化や 6 次産業化の推進による所得の向上に対する支援等を行います。 **【具体的事業】** ・農業生産組織育成支援事業 ・新時代農業経営高度化支援事業 ・高収益作物生産条件整備促進事業 ・農業生産技術等導入実証費助成事業 ・6 次産業化応援事業	新規設立農業生産法人数 5 件

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 22：水稲育苗後のハウスでの花卉栽培の推進 　農業経営の複合化の推進により、水稲育苗ハウスを有効活用した、生産性の高い花卉を栽培することにより農業所得の向上と雇用の促進を図ります。 　**【具体的事業】** 　・水稲育苗ハウスでの花卉栽培の推進	生産農家数 5 経営体

方針３　農業を主体とした工場・企業の誘致

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 23：農産物を生産販売する工場・企業の誘致 雇用の創出を目指す企業と連携して、再生可能エネルギー（雪エネルギー等）を活用した、低コストの耐候性ハウスを組み合わせた、付加価値の高い高品質野菜の生産販売を進めます。 **【具体的事業】** ・農産物生産植物工場の誘致 ・企業誘致推進事業 ・企業立地促進事業	工場･企業の誘致による雇用者数 10 人

方針４　子育て世代の女性が働きやすい環境づくり

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 24：女性の多様な働き方の支援 女性の多様な働き方の実現を支援するためのコーディネート会社を創設します。福祉や高齢者の家事支援、農業の手伝いなど小さな仕事を募集し、短時間就労の希望者とのマッチングを行います。 **【具体的事業】** ・女性支援コーディネート会社創設事業 ・ひと・まち・しごと育成支援事業	コーディネート会社登録女性会員数 10 人
◆施策 25：認定こども園の開設による幼児教育の充実 子育て支援として、幼保一元化した「認定こども園」を開設し、自然や地域資源を生かした、更なる幼児教育の充実を図ります。 **【具体的事業】** ・認定こども園開設事業 ・保育料軽減対策事業 ・第 2 子・第 3 子保育料軽減対策事業	「認定こども園」待機児童数 0 人

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 26：高齢者による子育て支援と生活の張りや生きがいづくり 福祉施設に託児所を併設し、休日及び夜間の保育を行うことで、女性が働く環境づくりを行います。また、施設の高齢者が子どもの見守りを行うことで、高齢者の生活の張りや生きがいづくりを行います。 **【具体的事業】** ・子ども子育てファミリーサポート制度	高齢者による子どもの見守り人数 3 人

3-4 子どもが戻ってくるふるさとづくりを目指す(Plan4)

（1）基本目標

子どもが戻ってくるふるさとづくりを目指し、平成 31 年度の目標を以下とします。

指標	基準値	目標
転入超過者数	△56 人	247 人
婚姻数（40 歳未満）	年 13 組	年 16 組

（2）基本方針

以下 3 つの方針に基づき各施策を展開します。

① 方針 1：ふるさとで仕事をつくる生き方を実現するワーキングステイ型の移住支援

沼田町での新しいライフスタイルや働き方を実現できる若い世代の移住・定住を支援します。企業等、大きな雇用の場が少ない沼田町では、移住施策の第 1 段階として手に職があり自分で自分の仕事をつくれる起業者や農業従事者の移住を優先的に促進するワーキングステイ型の移住を支援します。

② 方針 2：札幌を中心とした子育て世代への移住支援と魅力発信

移住施策の第 2 段階として、沼田町出身者や都会の子育て世代の移住を促進します。子育て世代が暮らしやすい環境を整備するとともに、沼田町からの転出者が多く暮らしている札幌を中心に、沼田町で実現できるライフスタイルの魅力を発信します。

③ 方針 3：仕事をつくる生き方のできる人間力を育む生涯に亘る教育の充実

上記の移住施策と併行して、子どもがふるさとで仕事を創る生き方ができるような人間力の高い人材を育てるための教育を充実させます。これにより、進学時に転出した子どもがふるさとに戻って起業するような持続的にまちが成長する循環型の人づくりを行います。

（３）具体的な施策と重要業績評価指標（ＫＰＩ）

以下に、具体的な施策と重点業績評価指標を示します。

方針１：ふるさとで仕事をつくるワーキングステイ型の移住支援

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 27：若者のワーキングステイ型の移住・定住の促進 手に職があり自分で自分の仕事を創れる起業者や農業従事者、介護研修生等の移住支援を優先的に行います。 空き家や公営住宅等を活用した住まいや、一定期間の町内での就労確保の支援を行います。また、住宅については、住生活基本計画等の見直しも行いながら整備を検討していきます。 **【具体的事業】** ・リノベーション住替え等促進事業	ワーキングステイによる移住者数 5 人
◆施策 28：お試し住宅整備による小さな拠点の充実 お試し住宅を整備し、移住希望者が沼田町の生活を体験でき、移住のきっかけとなる環境づくりを行います。 また、この住宅を孫育て専用住宅にも併用して活用できるものとし、孫育てができる祖父母を入居対象とした住宅とすることで、移住促進のきっかけとする住宅とします。 **【具体的事業】** ・お試し住宅整備事業 ・リノベーション住替え等促進事業 ・沼田版ＣＣＲＣ推進事業	お試し住宅稼働率 60%

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 29：交流の場の創出と結婚支援 農業後継者の結婚支援として、農業に興味を持つ独身女性との交流パーティーを都市部において企画し、交流から成婚に繋がるよう支援します。 また、民間企業と連携した結婚相談窓口を開設し、自信を持って恋愛や結婚に望むことができる若者を増やすための事業や講座・セミナーを開催し、結婚支援のサポートを充実させます。 また、テーマ型コミュニティの創出により若者同士の交流を図るため、お試し住宅を活用したサークル活動の充実を図ります。 **【具体的事業】** ・アグリパートナー対策推進事業 ・グループ婚活支援事業 ・男子力・女子力アップトラベル事業 ・婚活サポートセンター事業 ・サークル活性化支援事業	婚活サポートセンター登録人数 100 人
◆施策 30：住まいの充実による移住・定住の促進 町内には単身者のニーズに合う住宅が不足しています。また、親との同居が多い農業後継者が自立し、結婚を促進する住宅の整備も必要です。また、子育て世代を対象とした住宅を整備し、若者の移住定住を促進します。 **【具体的事業】** ・単身者住宅整備事業 ・子育てファミリーサポート住宅整備事業 ・新規就農者及び医療・介護職員用住宅整備 ・住んで快適、暮らして満足移住定住応援奨励事業 ・地域おこし協力隊事業 ・農業女子住宅整備	住宅の整備による定住者数 24 人
◆施策 31：移住窓口の創設 移住コーディネーターを配置した、ワンストップサービスの相談窓口を開設します。 **【具体的事業】** ・移住コーディネーター新設事業 ・地域おこし協力隊事業	移住相談を受けたもののうち移住した件数 15 件

方針２：東京や札幌を中心とした子育て世代への移住支援と魅力発信

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 32： Ｕターン移住支援のためのツールづくり 沼田町出身者のＵターン移住のきっかけづくりを行うため、ＰＲ映像の活用や移住ガイドブックを制作し、沼田町のライフスタイルや働き方等の情報を発信します。 **【具体的事業】** ・Ｕターン斡旋事業	沼田町出身のＵターン就職者数 15 人
◆施策 33：ぬまた応援サポーター制度の構築 沼田町の出身者やふるさと納税者が沼田町民と同じ扱いとすることができる（準町民）「ぬまた応援サポーター制度」を構築します。また、対象者へ広報誌や行事案内等を送付することで本町への来訪を促します。 **【具体的事業】** ・ぬまた応援サポーター制度	サポーター制度による来訪者数 100 人
◆施策 34：都市との交流 北海道３大あんどん祭りの１つである「夜高あんどん祭り」や自然資源を生かしたほたる鑑賞、化石の宝庫としても知名度が高い沼田町の化石採取体験、雪国ならではの雪を利用したイベント等、本町の地域観光資源・農産物や観光施設の情報を総合的にＰＲすることで、「知ってもらう」「魅力を感じてもらう」「来てもらう」ことで交流人口の拡大と移住者の増加を図ります。 **【具体的事業】** ・夜高あんどん祭りの開催 ・ほたる祭りの開催 ・化石体験・調査研究事業 ・明日萌の里・ほたるの里歩くスキーの集いの開催 ・雪合戦大会の開催 ・ほろしん温泉ほたる館のＰＲ ・沼田町交流感謝祭事業 ・作付全道一加工用トマト推進事業 ・特産品販路開拓による販売促進及び情報発信拠点事業 ・農業体験型親子交流事業 ・北海道及び近隣町との広域連携による事業	観光入込客数 217,000 人

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 35：通勤者への移住定住支援 　子育て世代を中心とした町外から町内企業への通勤者を対象に、移住・定住のための支援を行います。 **【具体的事業】** ・町内企業等に通う町外通勤者移住後押し助成事業 ・子育て世帯応援通勤支援事業 ・がんばる高校生応援手当助成事業	町外からの移住者数 5 件

方針３：仕事をつくる生き方のできる人間力を育む生涯に亘る教育の充実

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 36：ふるさとの未来を描く教育の推進 学校教育において、地域が子どもたちと共に地域の課題や資源を発見し、ふるさと沼田町について学ぶ「ふるさと科」を独自教科として設定します。豊かな体験活動による生きた学力の育成、地域を愛する心の育成をします。 **【具体的事業】** ・ふるさと教育推進事業	「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合 85%
◆施策 37：英語を用いたコミュニケーション力の強化 国際化に対応できる教育のため、小中学校に「英会話科」を独自教科として設けます。ＩＣＴを活用した海外とのサテライト授業の実施、外国語指導助手の配置等を行います。 **【具体的事業】** ・カナダポートハーディ地区（姉妹都市）との交流事業 ・外国語指導助手（ＡＬＴ）の配置 ・まちなか英語空間体験事業	「英語が好きだ」と思う児童生徒の割合 85%
◆施策 38：小中学校の「学園化」の検討と確かな学力の醸成 沼田町では幼小中一貫連携教育を強化し、社会で生きる人間力の育成に取り組んでいます。一貫連携教育をさらに進め、実践と継続を確かなものにするための体制づくりとして、沼田小学校・沼田中学校の「学園化」を検討します。学園化による小中一貫教育により、今後の社会で生きる実践的な力と学力の醸成を図るため沼田ならではの特色のある教育を実践します。 【具体的事業】 ・一貫連携教育推進事業 ・学校ＩＣＴ整備事業 ・学校教育振興事業（特別授業） ・学力向上対策事業 ・学習サポート事業 ・奨学資金貸付事業 ・学校教育推進事業 ・学童保育「こどもっくる」の充実 ・富山県小矢部市沼田町青少年交流事業（姉妹都市）	小中学校の学園化数 1 校

具体的な施策・事業	ＫＰＩ
◆施策 39：子どもの身体と心のケアの充実 子どもの体力の低下は精神面に大きな影響を与えます。意欲や集中力を養うために、体力・運動能力の向上を図ります。また、スクールカウンセラーを配置し、多様化する子どもや保護者の心のケアを行います。 **【具体的事業】** ・児童・生徒体力向上対策事業 ・補助教諭、スクールカウンセラーの配置	新体力テストにおいて全国平均値に到達している児童生徒の割合 45%
◆施策 40：家庭や地域での教育の充実 家庭・学校・地域が連携し、まちぐるみで地域資源を生かした教育を行い、社会に貢献できる子どもを育てます。 【具体的事業】 ・一貫・連携教育推進事業 ・中学生ボランティア育成事業 ・家庭教育支援事業 ・シニアリーダー研修会の開催 ・自然体験キャンプ及び合宿通学の開催 ・こども交流ひろばの開催 ・芸術文化鑑賞事業	地域に貢献する小中学生ボランティア数 200 人
◆施策 41：すべての町民が心の豊かさを感じることができる生涯教育の充実 子どもから高齢者までのすべての町民に夢と希望が持てる、生涯に亘り人間力が高まる教育を行います。 【具体的事業】 ・生きがい講座 ・いきいき大学 ・地域環境博物館 ・社会教育推進事業 ・各種スポーツ大会の開催 ・体育振興事業 ・図書館事業	町民が社会教育に関する事業に参加する数 7,000 人

3-5　施策の一覧

各プランの施策を国の総合戦略の 4 つの基本方針に基づき以下に示します。

種類	施策
地方に しごとを つくる	施策 16：空き家リノベーションによる若者の起業支援
	施策 17：道の駅の整備による小さな拠点の充実
	施策 18：特産品や農産加工品の販路拡大・商品開発の支援
	施策 22：水稲育苗後のハウスでの花卉栽培の推進
	施策 21：農業生産法人化の推進
	施策 23：農産物を生産販売する工場・企業の誘致
	施策 27：若者のワーキングステイ型の移住・定住の促進
地方に ひとの流れ をつくる	施策　3：若者の空き家を活用した住み替え促進
	施策 19：魅力ある農業を創る新規就農、参入支援策の充実
	施策 20：農業女子プロジェクトの推進
	施策 28：お試し住宅整備による小さな拠点の充実
	施策 30：住まいの充実による移住・定住の促進
	施策 31：移住窓口の創設
	施策 32：　Uターン移住支援のためのツールづくり
	施策 33：ぬまた応援サポーター制度の構築
	施策 34：都市との交流
	施策 35：通勤者への移住定住支援
結婚・出産・子育て の若者の希望を かなえる	施策 11：出産・子育ての相談支援の場づくり
	施策 12：子育て施設整備による小さな拠点の充実
	施策 13：子どもの健康を守るための支援の充実
	施策 14：第 2 子以降が安心して産める経済的支援の充実
	施策 15：妊娠及び出産の経済的支援の充実
	施策 24：女性の多様な働き方の支援
	施策 25：認定こども園の開設による幼児教育の充実
	施策 26：高齢者による子育て支援と生活の張りや生きがいづくり
	施策 29：交流の場の創出と結婚支援

種類	施策
時代に合った 地域をつくり、 安心な暮らしを守る	施策　1：小さな拠点の形成
	施策　2：高齢者の拠点施設周辺への住み替え促進
	施策　4：在宅医療及び看取り体制の充実
	施策　5：多職種連携体制の強化
	施策　6：医療福祉の経済的支援
	施策　7：地域包括ケアの拠点「暮らしの保健室」づくり
	施策　8：暮らしの保健室を拠点とした予防・健康づくりの推進
	施策　9：高齢者世帯への経済的支援の充実
	施策 36：ふるさとの未来を描く教育の推進
	施策 37：英語を用いたコミュニケーション力の強化
	施策 38：小中学校の「学園化」の検討と確かな学力の醸成
	施策 39：子どもの身体と心のケアの充実
	施策 40：家庭や地域での教育の充実
	施策 41：すべての町民が心の豊かさを感じることができる生涯教育の充実

参考資料

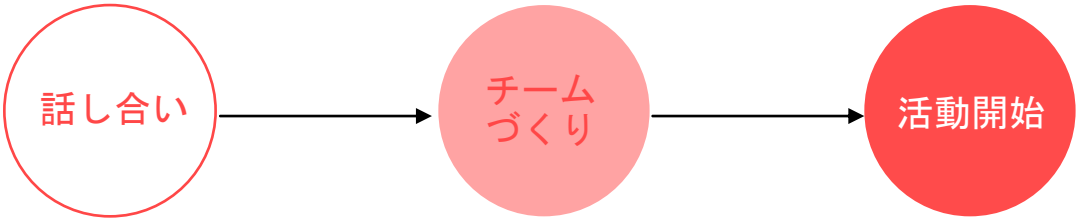
1-1　将来展望のための住民の意見

（1）コミュニティデザインの手法を活用した住民主体のまちづくり

沼田町は、平成 25 年度より住民とともに継続的に話し合いを行い、コミュニティデザインの手法を活用した住民主体のまちづくりを進めています。まちづくりについて住民と共に話し合うだけでなく、以下の①～③のように自分たちの手で実現するための、人づくり、チームづくり、活動づくりを行っています。

① まちの理想や課題を話し合い、実現や解決のためのアイデアづくりを行う
② アイデアを実現するための住民＋行政職員のチームをつくる
③ チームで活動を開始する

今回の総合戦略には、平成 25～26 年度の話し合いと平成 27 年度の総合戦略策定のための話し合いの中で出た意見を将来展望のための住民の意見として戦略に反映します。



平成 25 年度

- 住民ヒアリング
- 職員ワークショップ（全 1 回）
- 住民ワークショップ（全 1 回）

＋

平成 26 年度

- これから塾（住民勉強会・全 4 回）
- 多職種連携ワークショップ（全 5 回）
- つながる塾（住民ワークショップ・全 5 回）

＋

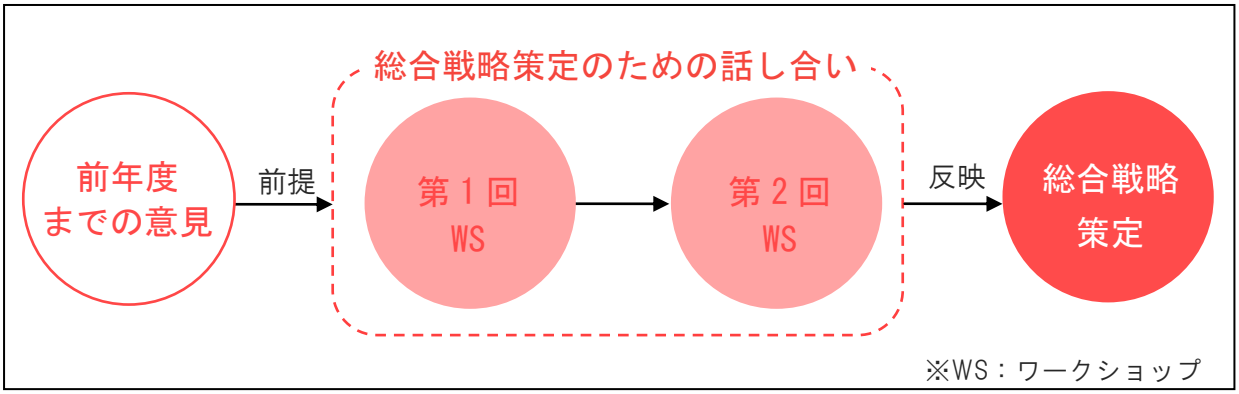
平成 27 年度

- 総合戦略策定 住民ワークショップ（全 2 回）
- 若者の希望を知るためのアンケート調査

（2）平成 27 年度のワークショップの概要

沼田町では平成 25 年度より継続的に住民とともにまちづくりについての話し合いを進めています。総合戦略策定の流れとして、前年度までに話し合った内容を勘案し、今年度は若い世代を中心に総合戦略策定について話し合いました。それらの内容を基に、総合戦略を策定しました。

総合戦略策定のためのワークショップは、平成 27 年 7～8 月に全 2 回開催し、20～30 代中心に参加者は延べ 75 人でした。第 1 回ワークショップは、若い世代に広く意見を聞くための手法として、カフェのような楽しい雰囲気づくりを行い話し合いを進めました。つながる塾の住民チームの 1 つ『カフェづくりチーム』のメンバーが主体となり、地域の食材を使用したパンやスイーツづくりを行い、沼田町に 1 日限定のカフェをオープンしました。カフェのような雰囲気の中、20～30 代を中心とした参加者は、「若い世代にとって暮らしやすいまち」について話し合いました。第 2 回ワークショップは、第 1 回ワークショップの意見をもとに、「まちで実現したいしごとづくり」について話し合いました。



（3）平成 27 年度のワークショップの意見のまとめ

平成 27 年度ワークショップの主な意見を以下にまとめます。

【若い世代が暮らしたいまちについての意見】

① しごと

課題：冬期に女性や若者がやりたい仕事がない

沼田町は豪雪地帯であるため、冬期は農業収益を上げることが非常に厳しい状況にあります。従って、沼田町の農業者は、冬期は除雪関連の仕事など農業以外の仕事に従事している方が多くみられます。冬期間にできる仕事は除雪等、男性の仕事ばかりであり女性ができる仕事が少ないことが課題です。

▼

意見やアイデア：冬期の女性のしごとづくりが農業支援になる

女性ができる雪国ならではの仕事をつくることが、冬期は農業をすることができない農家の支援につながります。アイデアとしては、町内のスキー場を活用した期間限定のカフェ等の起業支援、雪かきフィットネスクラブ、農産物の加工や販売など手づくり産業の推進、冬期に外出することができない高齢者のための一緒に外出するサービス、出張レストランや配食サービス、送迎サービス、保健師や医師と連携した訪問見守りサービス、ＩＴを活用した確定申告の入力サービス、年賀状作成サービスなどが挙げられます。

② 住まい

課題：若い世代の住まいが不足しており魅力的な住宅がない

沼田町は賃貸住宅が少なく、公営住宅等が主流の賃貸住宅には若者が住みたくなるような魅力的な住宅が少ないという意見も多くあります。現在の沼田町では、魅力的な住宅に住むためには自分で家を建てることしか選択肢がなく、若い世代や移住者にとって大きな課題となっています。また、市街地には空き家が多くみられ、空き家の有効活用が求められています。

▼

意見やアイデア：空き家をオシャレに活用したり、ＤＩＹできる家に住んでみたい

若者が望むのは設備が整った豪華な住宅ではなく、自分でＤＩＹできるものであったり、デザインが良くオシャレな住宅であるという意見が多くありました。アイデアとしては、市街地の空き家をリノベーションして、若い世代向けの住宅として活用することが挙げられます。

③ 出産・子育て

課題：子育てをしながら働ける環境づくり、子育ての相談ができる繋がりが必要

町内の医療福祉施設は、女性の雇用確保に大きく貢献しています。しかし、福祉施設で働く女性は、夜間や休日に勤務があることもあります。しかし、まちには夜間や休日に対応する託児施設はなく、子育てとの両立は難しいのが現状です。

また、町内には子どもを持つ親同士が気軽に集まれる場所が少ないという意見も多くありました。また、市街地には子どもが安全に遊べる広場や冬期に運動ができる場所がないという意見もありました。

▼

意見やアイデア：福祉施設に高齢者による見守りのある託児所をつくろう

福祉施設で働くスタッフから、福祉施設に休日・夜間の託児が可能な託児所をつくり、施設の高齢者に子どもの見守りをお願いしようというアイデアが出されました。子育て支援になるだけでなく、高齢者の就労支援の役割も果たします。

また、カフェなどを活用し、子ども服やおもちゃなどを物々交換する市を開催することで、町内で資源を循環させることができると共に、親同士の繋がりづくりを行う活動をやってみたいという意見もありました。広場に関しては、小さな拠点に整備する広場を有効に活用できるものにしようという意見がありました。

④ 交流

課題：職場を超えたつながりがない、移住者は友達が出来にくい

沼田町は職場単位で活動するお祭りやイベントが多いこともあり、職場や団体毎の繋がりが強い反面、職場を超えた繋がりが少ないという意見が多くあります。そうすると、自然な若者の出会いや仲間づくりの機会も多くありません。特に移住者や団体に属さない人は、なかなか友達が出来ないという意見もありました。気軽に入れるコミュニティが無いことは移住者にとっては大きな課題であり、この解決無しには移住者の増加や若者の定住は難しいと言えます。

▼

意見やアイデア：まちの課題を解決するテーマ型のコミュニティをつくろう

同じ趣味の人が集まれるコミュニティや沼田町で開催している『つながる塾』から生まれたまちづくりの活動をする住民チームのように、楽しみながらまちの課題を解決する活動を行うテーマ型のコミュニティを増やそうという意見がありました。それにより、活動人口が増えると共に、若い世代の出会いの場が創られます。

また、カフェなど女性や若者が気軽に集まれる場所を創ることも必要という意見も多くありました。

【まちで実現していみたい仕事についての意見】

① 食に関する仕事

意見やアイデア：健康や福祉をテーマとした食に関わる仕事がしたい

食に関わる手づくり品を販売したり、スキルを活かした仕事がしたいという意見が多くありました。その中でも特に食をテーマに健康づくりや福祉活動を実現し、まちの課題を解決したいという意見が目立ちました。例として、健康志向のカフェや天然酵母を使用したパンづくり、長寿社会を生きるための男の料理教室、高齢者ケアのための食づくり、見守りを兼ねた配食サービスなどが挙げられます。

② ものづくりに関する仕事

意見やアイデア：住民の起業を促進するため、手づくり品を製造できる場が必要

農家の主婦などが農産加工のノウハウを活かした手づくり産業を推進するため、気軽に手づくり品を製造したり、販売できる場所が必要という意見が多くありました。工場ではなく、住民が集まり気軽に使用できる場づくりが求められています。

また、まちのホームページや冊子の制作及び編集など、町外へ発注している仕事を町内の若者が実現できるようにしたいという意見がありました。行政や町内の各団体は、若者や主婦など町内の人材を活用し、クリエイティブなものづくりを行うよう発想の転換が求められています。

③ 福祉に関する仕事

意見やアイデア：沼田で高齢者をケアするしごとがしたい

沼田町は住民の健康や福祉の意識が高いことが特徴です。若い世代も同様の傾向にあり、高齢者に関わる福祉の仕事がしたいという意見が多く見られました。それらは、施設での介護ではなく、介護が必要になる前の地域での高齢者の介護予防に関わりたいという内容です。高齢者の短時間就労をコーディネートすることや、町内衣料品店と協働し高齢者のファッションショーを開催したりといったユニークな意見もありました。

【仕事を始めるために必要なサポートについての意見】

① 場所

意見やアイデア：空き店舗をリノベーションしてお店を開きたい

空き店舗をリノベーションしてお店を開くためには、空き店舗を探したり借りたりするための交渉が必要です。現状では、町内には不動産屋は無く相談できる人もいないため、それらのコーディネートの支援が必要という意見がありました。また、デザインの相談ができる人がいれば心強いという意見もありました。

また、手づくり品の製造や販売は主婦が中心になって行うため、子育てをしながらでも働けるようなものづくり工房や加工場の近くに託児所があったらいいという意見がありました。

② しくみ

意見やアイデア：子育てや家事の合間に短時間の仕事がしたい

女性のライフスタイルに合わせて働ける短時間の仕事があったらいいという意見がありました。例として、在宅の高齢者ケアからちょっとした買い物や調理など地域の福祉の仕事をワークシェアリングで行う仕事があります。そのためには、女性の就労の希望と地域の福祉の仕事をマッチングするコーディネーターが必要という意見がありました。

③ 情報発信

意見やアイデア：行政的ではない情報発信が必要

起業をしたりものづくりを行っている個人の活動を応援するために、まちとして情報発信するメディアやツールが必要であるという意見がありました。例として、つながる塾の住民チームが行なっている活動のように映像による情報発信を行い、それがアーカイブされる動画メディアを制作しようという意見がありました。

※アーカイブ：記録や資料などをひとまとめにして保存すること。

【仕事を続けるために必要なサポートについての意見】

① 子育て支援

意見やアイデア：子育てと仕事の両立をしていきたい

町内には休日・夜間の託児が可能な託児所が無いため、施設の高齢者に子どもの見守りをお願いしようという意見がありました。子育て支援になるだけでなく、高齢者の就労支援の役割も果たします。

平成 27 年度ワークショップの意見を以下のリストにまとめました。

◆若い世代にとっての暮らしやすいまち

種類		意見
住まい	若者	気軽に DIY（※）できる住まい
		豪華でなくても良いのでオシャレな住まい
		若い人が住まいを手にいれやすい
	空き家	空き家をリノベーションしてオシャレに活用できる
		空き家を起業したい人やアーティストに貸し出す
出産・子育て	お金	出産、育児、教育の経済的支援
	教育	子どもが社会で生き抜く力が身につく最先端の教育
	交流	育児の悩みを話し合える場所
		子ども服やおもちゃを物々交換できる
	託児	土日や祝日に子どもを預かってくれる
交流	場所	カフェなど女性が気軽に集れる場所がある
	移住者	移住者や団体に属さないひとが入りやすい、仲間づくりの機会
	出会い	職場以外の出会いの場がある
		若者が参加しやすいイベント
	趣味	同じ趣味の人が集える環境や場所がある
		音楽ができる環境がある
広場など		公園や屋内運動施設など簡単な運動やスポーツがしやすい環境が整備されている
		みんなで楽しく運動ができる場所がある
買い物		生活用品が買い揃えられる
交通		小児科に行くのに、乗合いできる交通手段
その他		高齢者だけでなく、若者のことを考えて欲しい
		あんどんがいつでも見れたらいい

※ＤＩＹ：Do It Yourself の略、「自身でやろう」の意

◆まちで実現したいしごとづくり

種類		意見
やってみたいしごと	食	健康志向のカフェ
		北欧にあるような自然素材のパン屋
		高齢者の見守りを兼ねた配食サービス
		高齢者の家にある食材で調理する出張レストラン
		高齢者ケアのための美味しく健康なメニューづくり
		長寿社会を生きるための男の料理教室
		高齢者がおふくろの味を教えてくれる料理教室
		地元の食材を活用したスイーツづくり
		オシャレな特産品づくり
		地元の食材を使った健康食のカフェや食堂、デリバリー
		栄養士が監修する地元の食材を使用したお惣菜屋
		若者の交流の場となるバーや結婚支援の場となるスナック
	農業	冬季に女性ができるしごとがあることが農業支援になる
	ものづくり	手づくり品を売ったり、買ったりできる
		自分の特技や趣味を活かして働きたい
		参加しやすいオシャレな手づくり講座
		まちをＰＲする雑誌や冊子の制作や編集、HP 作成などのデザイン
		フラワーアレンジメントなど冬季に栽培する花を生かした仕事
		服や家具をリメイクして販売できる
		建築やインテリアのデザイン
		ゲームやアニメなど映像やＩＴに関わる仕事
	福祉	高齢者が暮らしやすくなるしごと
		福祉の資格がまちなかでとれたらいい
		高齢者の１コイン(短時間)就労のためのコーディネーター
		高齢者のファッションショーを開催する衣料品店
		インターネットによる高齢者の買い物の代行サービス
		障がい者がつくったデザイン性の高い雑貨を販売する就労支援施設
	健康づくり	一流アスリートやインストラクターによるスポーツ教室
		子供の運動をサポートするトレーナー
	美容	エステやネイルなど美容のしごと
		１坪でできるエステやボディケア
	ＩＴ	市街地の Wi-Fi 環境が充実している
	教育	駄菓子屋や広場で子供が学べる現代版の寺子屋
		子供の活動や体験のコーディネーター
		まちの図書館の代わりをするこだわりの古本屋さん
	その他	町内のスキー場を活用した食のお店づくり
		町内の視察に対応した面白ツアーガイド

種類		意見
仕事を始めるためのサポート	場所	ものづくり工房や加工場（託児所付）
		活動や発表ができる場所
		不動産を探したり、交渉するためのコーディネート
	ひと	女性の多様な働き方に対応する就労コーディネーター
		一緒に仕事を始められる仲間
	しくみ	女性の生き方や働き方にあった仕事の環境づくり
		子育てや家事の合間にしごとがしたい
		ライフスタイルに合わせて働ける短時間の仕事
	デザイン	空き家のリノベーションの相談や支援
		デザインの相談や支援
	学び	活動のための知識や情報を得る機会
	情報発信	映像やオシャレな HP 等、行政的ではない情報発信
		活動の情報発信の相談や支援
仕事を続けるためのサポート	子育て	休日や夜間に預かってくれる託児所
		福祉施設の女性は子育てとの両立ができない、福祉施設に託児所を設け高齢者が子育て支援してくれるしくみ
		家族の理解やサポート
		女性の働き方に理解のあるリーダー
		高齢者による休日や病児保育など子育て支援のしごと
		短時間専門のベビーシッター
		実家が近く子どもを預けられる
仲間を増やすためのアイデア	活動	小さくでも継続してやってみる
	子育て	安心して子供を預けられるというオプションがある
	場所	働く場所をオシャレにする
		仲間や趣味と出会える場所づくり
	情報発信	楽しさを口コミで伝える
		ホームページなど発信元がある
		社会実験のイベントを開催しアピールする

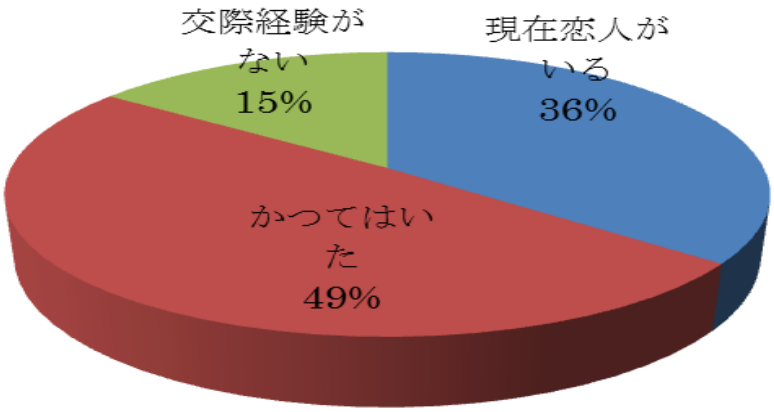
1-2　結婚、出産・子育てに関するアンケート集計結果

（1）結婚に関するアンケート結果概要

・調査目的　：沼田町総合戦略策定の基礎資料とするため実施
・調査対象等：20～35 歳以下の未婚男女の町民、住民基本台帳より 162 名を抽出
・調査期間等：平成 27 年 8 月 21 日から 9 月 4 日

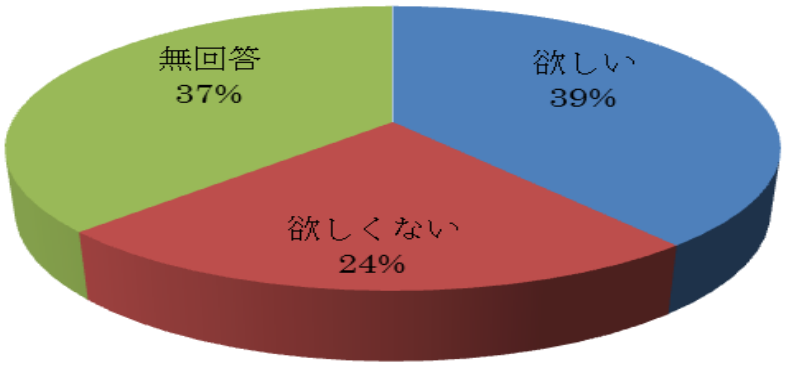
①　恋人との交際状況

現在の恋人との交際状況についてみると、「現在はいないが、かつてはいた」が 49%と最も高く、次いで「現在恋人がいる」が 36%、「交際経験がない」が 15%の順になっています。



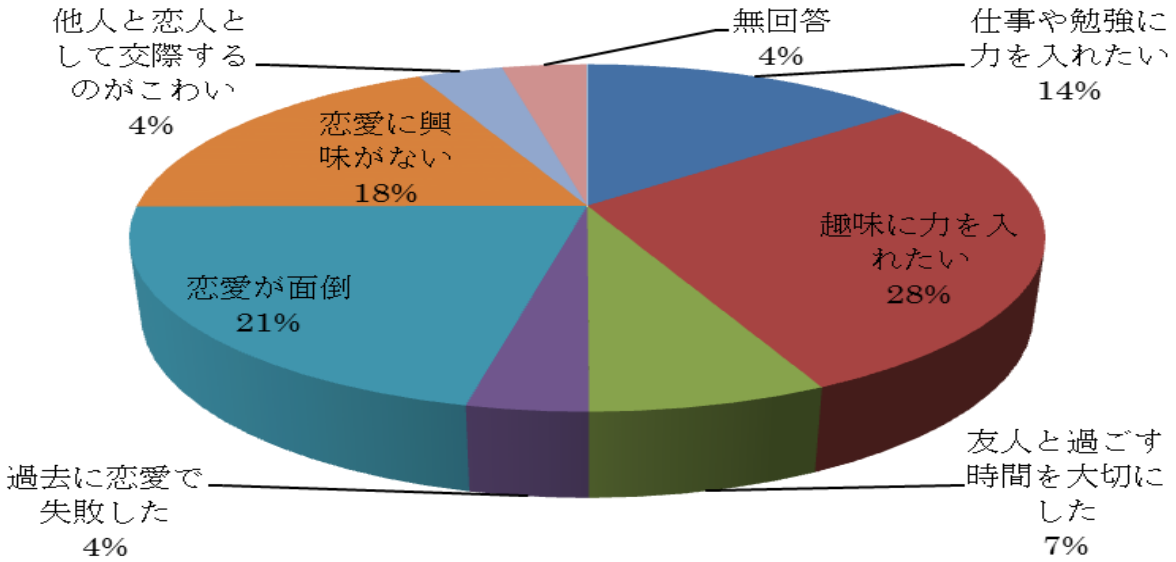
②　現在の恋人願望（「かつてはいた、交際経験がない」と回答した方）

現在の恋人願望についてみると、「欲しい」が 39%と最も高く、次いで「無回答」が 37%、「欲しくない」が 24%の順になっています。



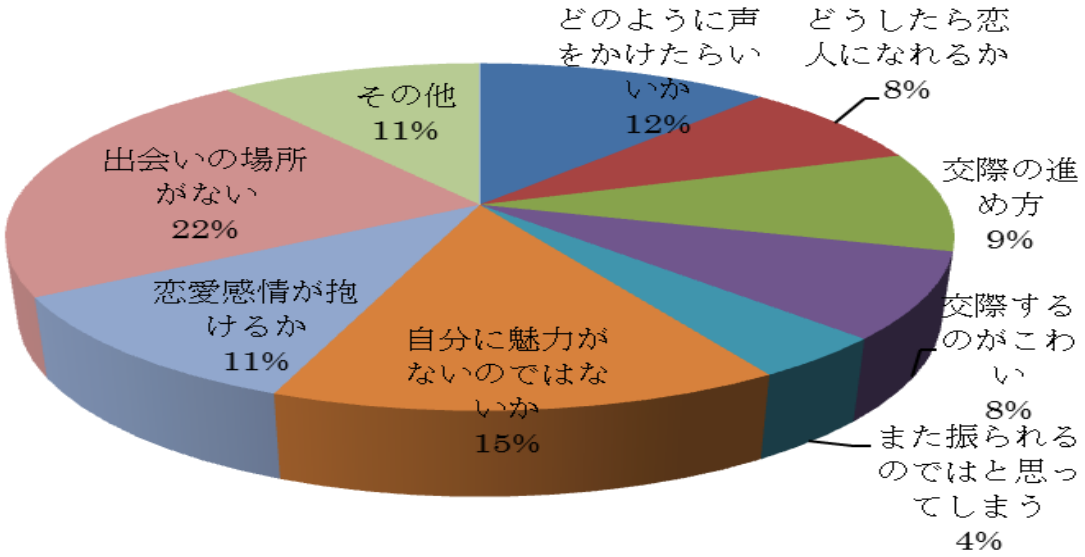
③　恋人がほしくない理由（②で「欲しくない」と回答した方）≪複数回答≫

恋人がほしくない理由についてみると、「趣味に力を入れたい」が 28%と最も高く、次いで「恋愛が面倒」が 21%、「恋愛に興味がない」18%の順に続いていきます。



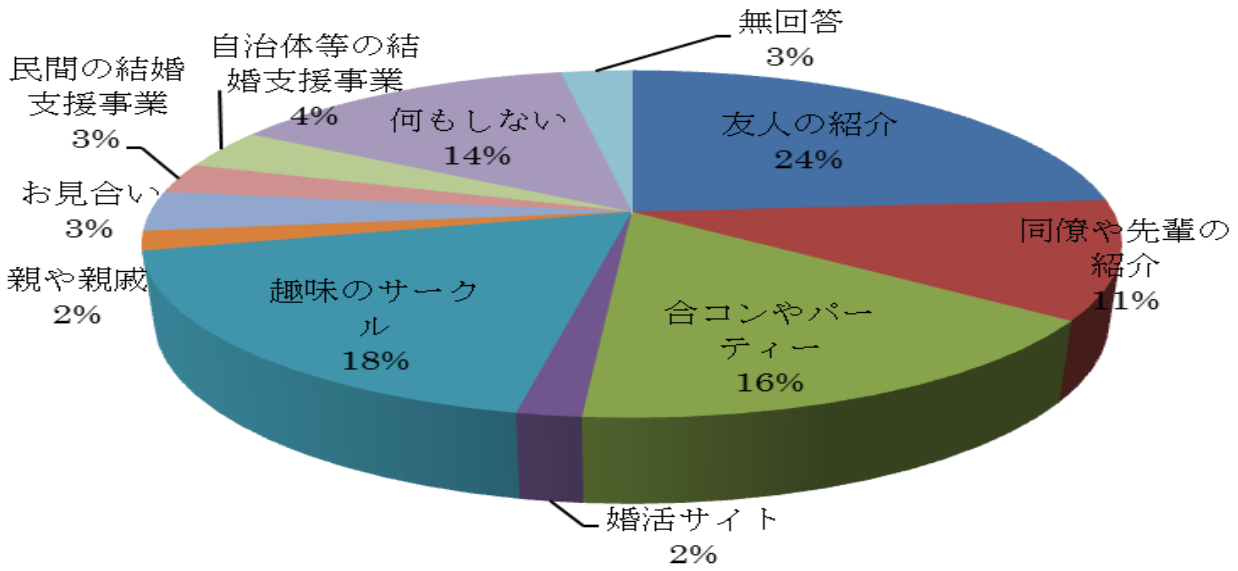
④　恋人として交際するうえでの不安（「かつてはいた、交際経験がない」と回答した方）≪複数回答≫

恋人として交際するうえでの不安についてみると、「出会いの場所がない」が 22%と最も高く、次いで「自分には魅力がないのではないか」が 15%、「気になる人にどのように声をかけたらいいか」が 12%の順に続いていきます。



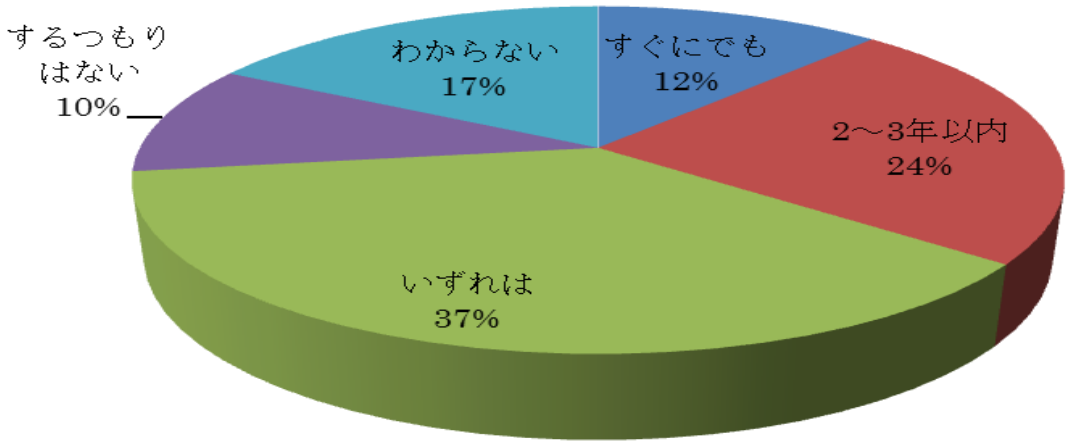
⑤　出会いを求めるとしたら何を行いたいか≪複数回答≫

出会いを求めるとしたら何を行いたいかについてみると、「友人に紹介を頼む」が24%と最も高く、次いで「趣味のサークルに入る」が18%、「合コンやパーティーに行く」が16%の順に続いていきます。



⑥　将来の結婚についての考え

将来の結婚についての考えについてみると、「いずれは結婚したい」が37%と最も高く、次いで「2～3年以内に結婚したい」が24%、「わからない」が17%の順に続いていきます。

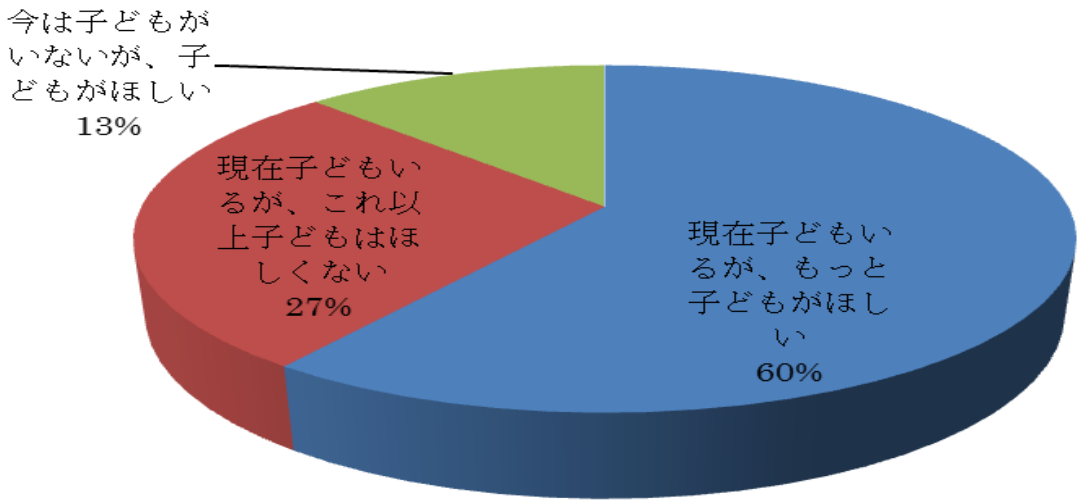


（2）出産・子育てに関するアンケート結果概要

・調査目的　：沼田町総合戦略策定の基礎資料とするため実施
・調査対象等：20～35 歳以下の既婚男女の町民、住民基本台帳より 88 名を抽出
・調査期間等：平成 27 年 8 月 21 日から 9 月 4 日

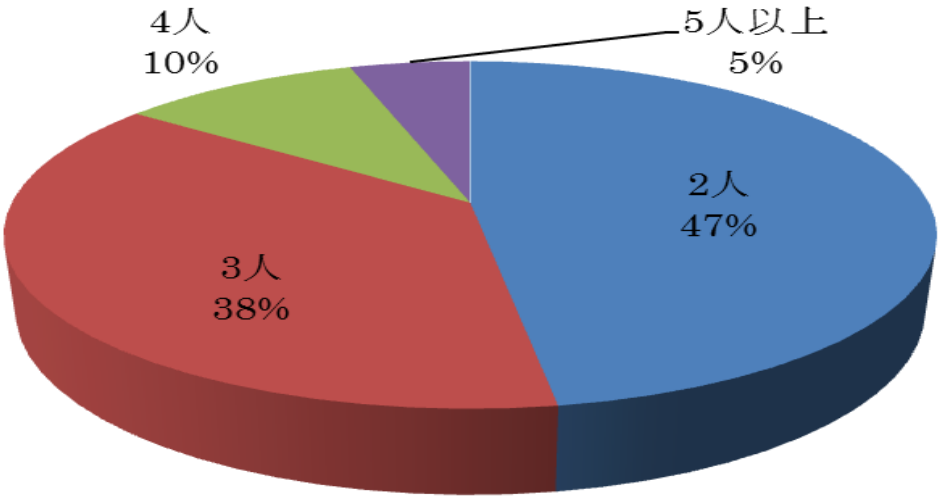
①　子どもについての考え

子どもについての考えについてみると、「現在こどもがいるが、もっと子どもがほしい」が 60%と最も高く、次いで「現在こどもがいるが、これ以上子どもはほしくない」が 27%、「今は子どもがいないが、子どもがほしい」が 13%の順に続きます。



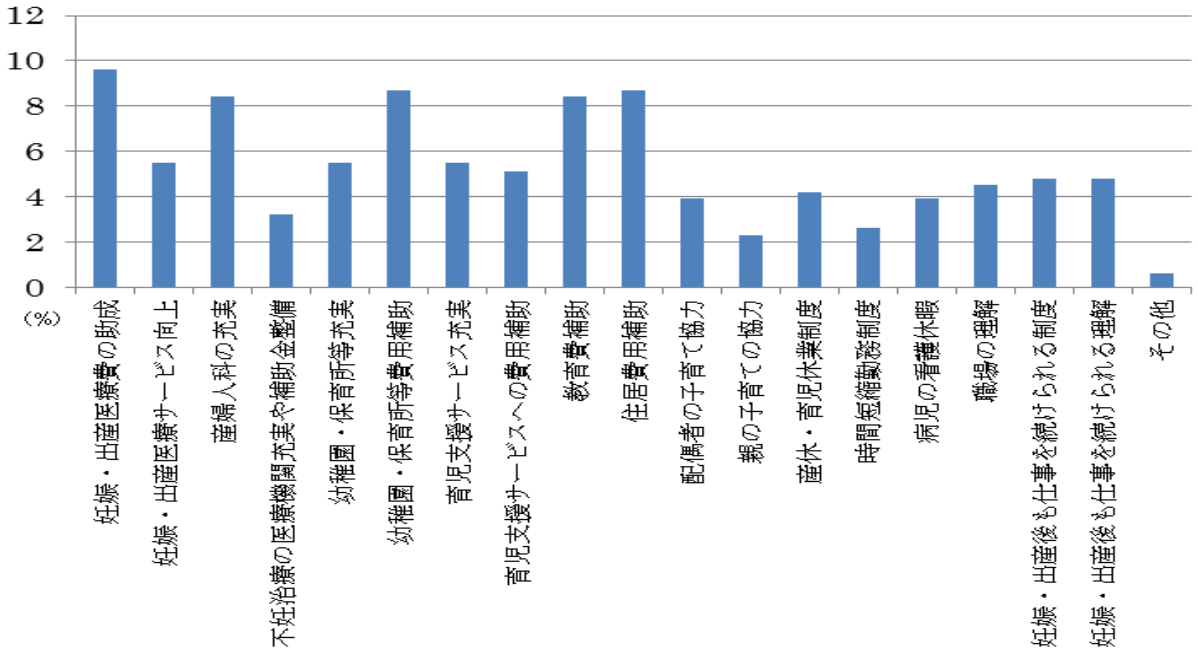
②　子どもは何人ほしいか（子どもがいる方はその子ども含めた数）

子どもは何人ほしいかについてみると、「2 人」が 47%と最も高く、次いで「3 人」が 38%、「4 人」が 10%の順に続いていきます。



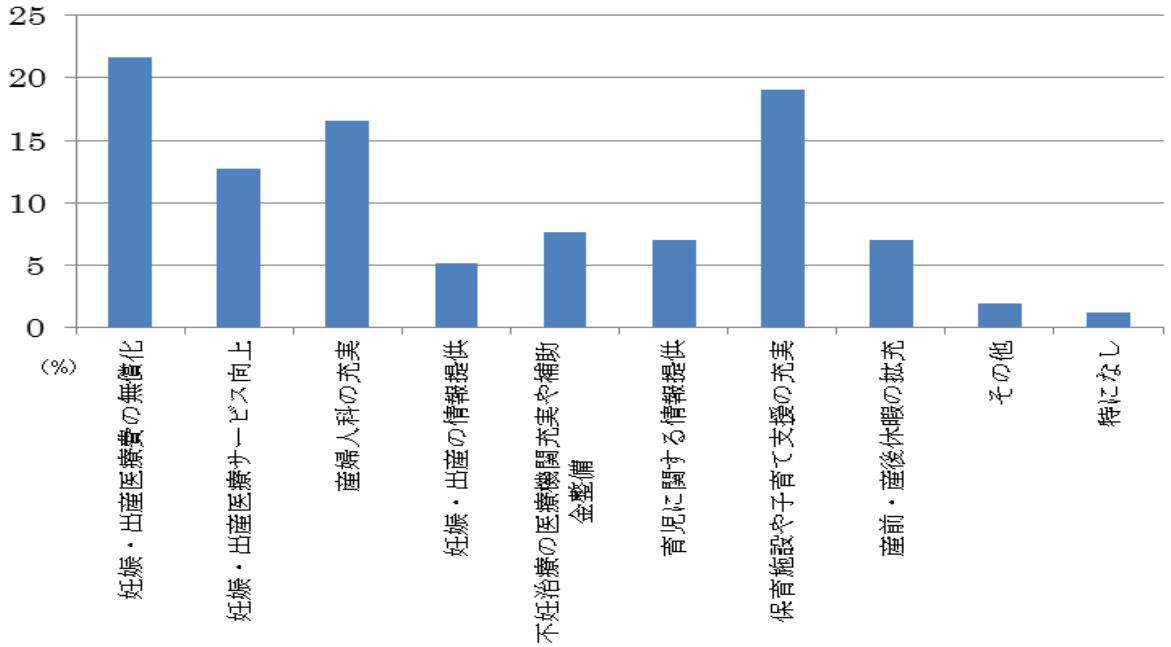
③　どのようなことがあれば、（これ以上）子どもがほしいと思うか≪複数回答≫

どのようなことがあれば、子どもがほしいと思うかについてみると、「妊娠・出産に伴う医療費の助成」が 9.6%と最も高く、次いで「幼稚園・保育所等の費用の補助」「住居費用の補助」が 8.7%、「産婦人科の充実」「将来の教育費に対する補助」が 8.4%の順に続いていきます。



④　出産を希望する人に対して、行政に実施してほしい取組み≪複数回答≫

出産を希望する人に対して、行政に実施してほしい取組みについてみると、「妊娠・出産に伴う医療費の無償化」が 21.7%と最も高く、次いで「保育施設や子育て支援の充実」が 19.1%、「産婦人科の充実」が 16.6%と続いていきます。



沼田町「まち・ひと・しごと創生」総合戦略策定推進委員名簿

（敬称略）

	役　職	氏　名
1	沼田町商工会　会長	吉住　淳男
2	北いぶき農業協同組合　代表理事専務	黒田　洋一
3	沼田町土地改良区　理事長	岡田　聖人
4	沼田町農業委員会　会長	山岡　禎弘
5	沼田町建設業協会　会長	渡部　　稔
6	沼田町教育委員会　教育委員長	青木　健治
7	沼田中学校　校長	小川　　勉
8	沼田小学校　校長	元木　和芳
9	北空知信用金庫　沼田支店長	浅野　秀晃
10	沼田郵便局　局長	大京寺　義明
11	北海道教職員組合　沼田支会長	土屋　正治
12	自治労沼田町職員組合　執行委員長代理	荒川　幸太
13	沼田町社会福祉協議会　会長	津川　郁夫
14	沼田町民生委員児童委員協議会　会長	須網　賢一
15	沼田町自治振興協議会　会長	石田　隆広
16	沼田町商工会　副会長	坂本　久和
17	沼田町商工会　副会長	廣野　辰也
18	北いぶき農業協同組合　常務理事	澤田　浩樹
19	北いぶき農業協同組合　地区代表理事	堀　　裕昭
20	沼田町土地改良区　理事長代理	横山　佳幸
21	沼田町農業委員会　会長代理	辻　　則行
22	沼田町教育委員会　教育委員長職務代理	小西　克典
23	沼田町社会福祉協議会　副会長	野原　耕次
24	沼田町民生委員児童委員協議会　副会長	澤田　美智雄
25	沼田町民生委員児童委員協議会　副会長	石川　晶子
26	沼田町自治振興協議会　副会長	野々宮　宏
27	沼田町自治振興協議会　副会長	青木　法雄
28	沼田町自治振興協議会　事務局長	郷古　　一
29	フリーライター	志田　愛仁
30	沼田町　町長	金平　嘉則
31	沼田町　副町長	栗中　一弘
32	沼田町教育委員会　教育長	生沼　篤司

沼田町「まち・ひと・しごと創生」総合戦略策定検討会議名簿

（敬称略）

	役　職	氏　名
33	沼田町商工会　事務局長	葛西　直人
34	北いぶき農業協同組合　沼田支所長	白峰　盛富
35	沼田町土地改良区　参事	内田　睦隆
36	沼田中学校　教頭	中川　浩之
37	沼田小学校　教頭	石川　孝人
38	沼田町社会福祉協議会　事務局長	疋田　　治
39	沼田町教育委員会　次長	篠原　　毅
40	沼田町議会　事務局長	三浦　　剛
41	沼田町農業委員会　事務局長	高儀　和明

沼田町総合戦略

平成27年10月

北海道　沼田町　政策推進室

〒078-2202　北海道雨竜郡沼田町南1条3丁目6番53号
電話　0164-35-2155　FAX　0164-35-2393
E-meil　seisaku@town.numata.lg.jp